

秋田県立博物館

年 報

平成 26 年度

秋田県立博物館



## はじめに

秋田県立博物館は、昭和50年5月、人文・自然の展示を統合した本館と、分館の「旧奈良家住宅」(重文)からなる総合博物館として開館しました。平成8年4月には、「秋田の先覚記念室」と「菅江真澄資料センター」を開設し、平成16年4月には、人文・自然・企画の各展示室を一新するとともに、体験学習の場を提供する「わくわくたんけん室」などの新しい機能を付加し、リニューアルオープンしました。

このように、県民の生涯学習の拠点として、県民が「ふるさと秋田」についての学びに「出会う」「楽しむ」「分かち合う」「広げる」をキーワードに、昨年度は「また来たいと思う博物館」を合い言葉に、リピーターを増やすことに努めて参りました。

平成26年度までの目標を定めた中期ビジョンの中に、「年間利用者数10万人」という数値目標があります。本県は少子高齢化が急速に進んでいることから苦戦を強いられておりましたが、昨年度、7年ぶりに10万人を突破することができました。特別展「あきた大鉄道展」が大ヒットし、その後の企画展「わくわく科学展」「秋田のくすり今昔物語」も好評を博しました。企画コーナー展等も含め、新聞はじめ報道機関に年間120本ほど取り上げていただき、広報活動の強化が奏功したと考えております。何よりも、県民のニーズを的確に捉え、スタッフが知恵を出し合い、時間をかけた展示には、お客様が足を運んでくださり、心から喜んでいただけるんだと再認識した年度でもありました。

このことを踏まえ、今後も県民との協働により、「ふるさと秋田」についての学びを深め、ひとりでも多くの県民が本県の生涯学習が目指す「行動人」として、創造性豊かな活動にチャレンジできる知の拠点であり続けるよう努めて参りますので、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

秋田県立博物館

館長 風 登 森 一

## 目次

■ 施設の概要	
I 博物館のあゆみ .....	4
II 施設・設備 .....	5
III 展示室 .....	9
IV 組織 .....	13
V 職員 .....	14
■ 事業の概要	
I 平成26年度博物館運営方針 .....	16
II 平成26年度博物館事業計画 .....	16
III 平成25年度事業報告 .....	20
1 調査研究活動 .....	20
2 資料収集管理活動 .....	23
3 展示活動 .....	24
4 教育普及活動 .....	30
5 広報出版活動 .....	32
6 学習振興活動 .....	33
7 館外活動 .....	35
■ 資料	
I 収蔵資料の概要 .....	38
II 歴代館長、特別展等一覧 .....	39
III 秋田県立博物館条例 .....	40
IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） .....	41
教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋） .....	41
V 入館者に関する資料 .....	42

## 施設の概要

---

## I 博物館のあゆみ

- 昭和42年1月 第2次秋田県総合開発計画の中で、総合博物館の建設計画を立案  
12月 県立博物館の建設場所を秋田市金足に決定  
47年3月 県立博物館設立構想完成  
49年11月 定礎式  
50年3月 秋田県立博物館条例制定  
5月 開館式（5日）  
一般公開（10日）  
旧奈良家住宅（重要文化財）分館として博物館に移管される  
7月 登録博物館となる（登録日50.7.1）  
54年1月 生物部門展示室「秋田の自然と生物」オープン  
55年5月 秋田県博物館等連絡協議会発足  
59年9月 開館10周年記念式典  
63年9月 本館屋根防水工事完了  
平成3年8月 秋田県立博物館再編構想案作成のため委員会を開催  
9月 分館旧奈良家住宅屋根修理着工  
4年11月 分館旧奈良家住宅屋根修理完成  
5年7月 増築工事着工  
7年8月 増築工事完成  
8年4月 「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」オープン  
9年8月 ニューミュージアムプラン（NMP）21検討委員会設置  
11年4月 入館料が無料となる  
14年4月 ニューミュージアムプラン（NMP）21に伴う改修工事のため、「秋田の先覚記念室」・「菅江真澄資料センター」・分館旧奈良家住宅を除き閉館  
15年10月 改修建築・設備工事完成  
縄文の石設置  
16年3月 展示工事完成  
4月 リニューアルオープン  
17年12月 開館30周年記念式典  
18年3月 旧奈良家住宅附属屋、登録有形文化財に登録  
20年7月 クニマスの液浸標本が、動物として初めて国の登録記念物に指定される

## Ⅱ 施設・設備

設置場所	秋田市金足鳩崎字後山52	㈱中田建築設備
敷地面積	14,885.9㎡	㈱ユアテック秋田支社
建築面積	6,237.93㎡	サン電気工業㈱
建築延面積	11,946.2㎡	展示製作実施設計 ㈱丹青社
建築構造	鉄骨鉄筋コンクリート造り 地上3階、塔屋2階建	展示製作委託施工 ㈱乃村工藝社

### 【建築工事】

建築費	2,058,131千円 (含調査事務費・展示資料費)
着工	昭和48年7月
竣工	昭和49年11月
開館	昭和50年5月
工事業者	建築設計 KK安井建築設計事務所 建築施工 三井建設KK 設備施工 KK三晃空調 東北電気工事KK 展示設計施工 KK丹青社

### 【増築工事】

建築費	1,578,174千円 (含調査事務費・展示資料費)
着工	平成6年7月
完成	平成8年2月
増設開館	平成8年4月
工事業者	建築設計 KK安井建築設計事務所 建築施工 三井建設KK 設備施工 KKユアテック 日の出施設工業KK KK三和施設 日本オーチスエレベータKK 展示設計施工 KKアートシステム

### 【NMP事業】

事業費	2,087,400千円 {総事業費(含調査事務費、 展示製作委託費)}
着工	平成14年3月
完成	平成16年3月
リニューアル開館	平成16年4月29日
工事業者	建築設計 ㈱安井建築設計事務所 建築施工 ㈱林工務店 ㈱清水組JV 設備施工 大民施設工業㈱ ㈱あたごJV

### 設 備

〈電気設備〉	
(1) 受電電圧	3φ6,600V 50HZ
一般照明用	450KVA (150×3)
一般動力用	550KVA (300×1) (250×1)
非常照明用	50KVA
非常動力用	150KVA
(2) 発電機設備	発電電圧 3φ6,600V 50HZ 200KVA エンジン ディーゼル 230KVA
(3) 蓄電池設備	108V 200AH 10HR 54セル
(4) その他幹線・動力・電灯用設備一式	〈警戒(報)設備〉
(1) レーダー警報設備	(展示室・収納庫) 方式、パッシブインフラレッド方式 レーダー検出 10ヶ所 ドアスイッチ 10ヶ所
(2) I・T・V監視設備	監視用カメラ 20台 (展示室14台 収蔵庫4台 1Fホール1台 外1台)
(3) 一般・非常放送設備	ロッカ型防災アンプ 容量 200W 非常時警報音 自動吹鳴式(サイレン)
〈空調換気設備〉	
(1) 冷凍機設備	(備熱水槽方式 容量780m <sup>3</sup> ) 直焚吸収式冷温水機 冷却能力 1,220KW 加熱能力 1,200KW 1基 ターボ冷凍機(夜間蓄熱運転系統) 冷却能力 312KW 1基 空冷チリングユニット(夜間運転系統) 冷却能力 132KW 1基
(2) ボイラー設備	貫流ボイラー(暖房・加湿用) 熱出力 940KW (換算蒸発量1,500kg/h)

伝熱面積 9.9m<sup>2</sup> 2基

(3) 空気調和設備 (10系統)

冷却能力合計 897.8KW

加熱能力合計 524.6KW

(4) 換気設備一式

給気量 (7系統) 合計 25,850m<sup>3</sup>/h

排気量 (9系統) 合計 28,360m<sup>3</sup>/h

(5) 空調自動制御設備一式

〈防火防災設備〉

(1) 防災設備 排煙口32ヶ所・タレ壁20ヶ所

防火戸47ヶ所

(2) 消火設備 屋内外消火栓設備一式

屋内消火栓24ヶ所 屋外消火栓24ヶ所

ハロン消火設備 (収蔵庫のみ 3区画)

二酸化炭素消火設備 (収蔵庫のみ 2区画)

〈その他の設備〉

(1) 荷物用エレベータ 容量2,500kg

30m/min 1基

(2) 乗用エレベーター 積載量750kg

11人乗45m/min 2基

(3) 電話設備 局線5回線 内線49回線

(4) 衛生設備 給排水設備一式

(5) ガス設備及び避雷針設備

(6) ガス燻蒸消毒設備

### 建築予算

単位：千円

区分	44~46年度	47年度	48年度	49年度	計	財源内訳
計画策定費	17,980	34,267	16,960	10,195	79,402	国庫
建物費	-	-	591,754	760,996	1,352,750	80,000
展示・資料費	41,880	20,000	183,907	318,758	564,545	県債
初度調弁・その他	-	-	3,240	35,400	38,640	1,241,000
調査事務費	7,246	5,835	5,828	3,885	22,794	一般
計	67,106	60,102	801,689	1,129,234	2,058,131	737,131

### 増築予算

単位：千円

区分	3~4年度	5年度	6年度	7年度	計	財源内訳
計画策定費	10,850	57,125	6,845	7,268	82,088	県債
建物費	-	-	354,805	613,438	968,243	1,117,000
展示・資料費	-	1,500	141,784	310,534	453,818	
初度調弁・その他	-	-	-	11,000	11,000	一般
調査事務費	2,200	9,770	22,257	28,798	63,025	461,174
計	13,050	68,395	525,691	971,038	1,578,174	

### NMP21事業予算

単位：千円

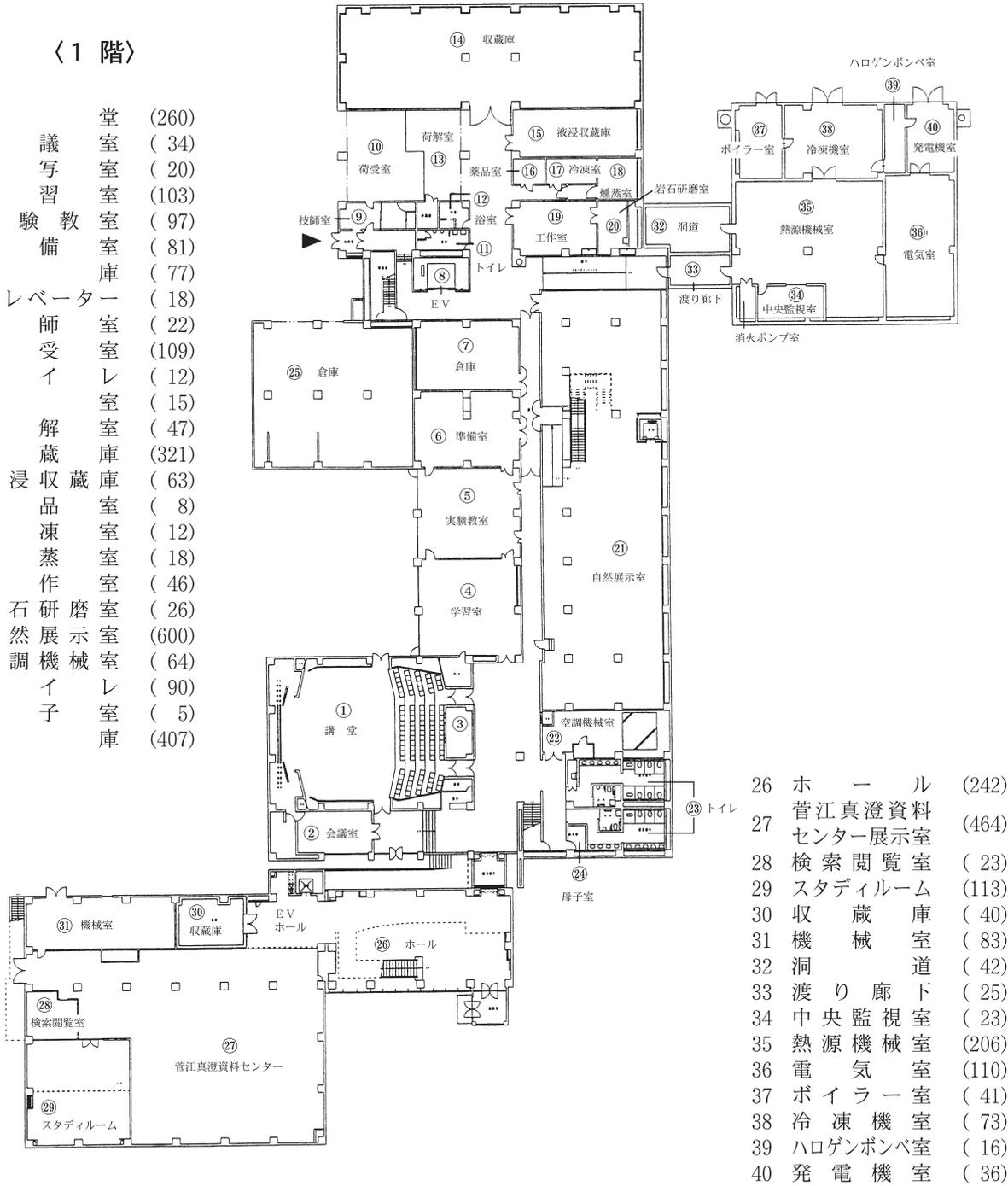
区分	11年度	13年度	継続費			小計	事業費合計	財源内訳
			13年度	14年度	15年度			
工事請負費	-	-	0	646,007	396,418	1,042,425	1,042,425	県債
委託費	9,870	39,995	0	60,676	919,184	979,860	1,029,725	1,516,000
調査事務費	5,250	-	1,296	4,522	4,182	10,000	15,250	一般
計	15,120	39,995	1,296	711,205	1,319,784	2,032,285	2,087,400	571,400

# 一各階平面図一

( ) 内の数字は面積 (単位㎡)

## 〈1階〉

- 1 講 堂 (260)
- 2 会 議 室 (34)
- 3 映 写 室 (20)
- 4 学 習 室 (103)
- 5 実 験 教 室 (97)
- 6 準 備 室 (81)
- 7 倉 庫 (77)
- 8 エレベーター (18)
- 9 技 師 室 (22)
- 10 荷 受 室 (109)
- 11 ト イ (12)
- 12 浴 室 (15)
- 13 荷 解 室 (47)
- 14 収 蔵 庫 (321)
- 15 液 浸 収 蔵 庫 (63)
- 16 薬 品 室 (8)
- 17 冷 凍 室 (12)
- 18 燻 蒸 室 (18)
- 19 工 作 室 (46)
- 20 岩 石 研 磨 室 (26)
- 21 自 然 展 示 室 (600)
- 22 空 調 機 械 室 (64)
- 23 ト イ (90)
- 24 母 子 室 (5)
- 25 倉 庫 (407)



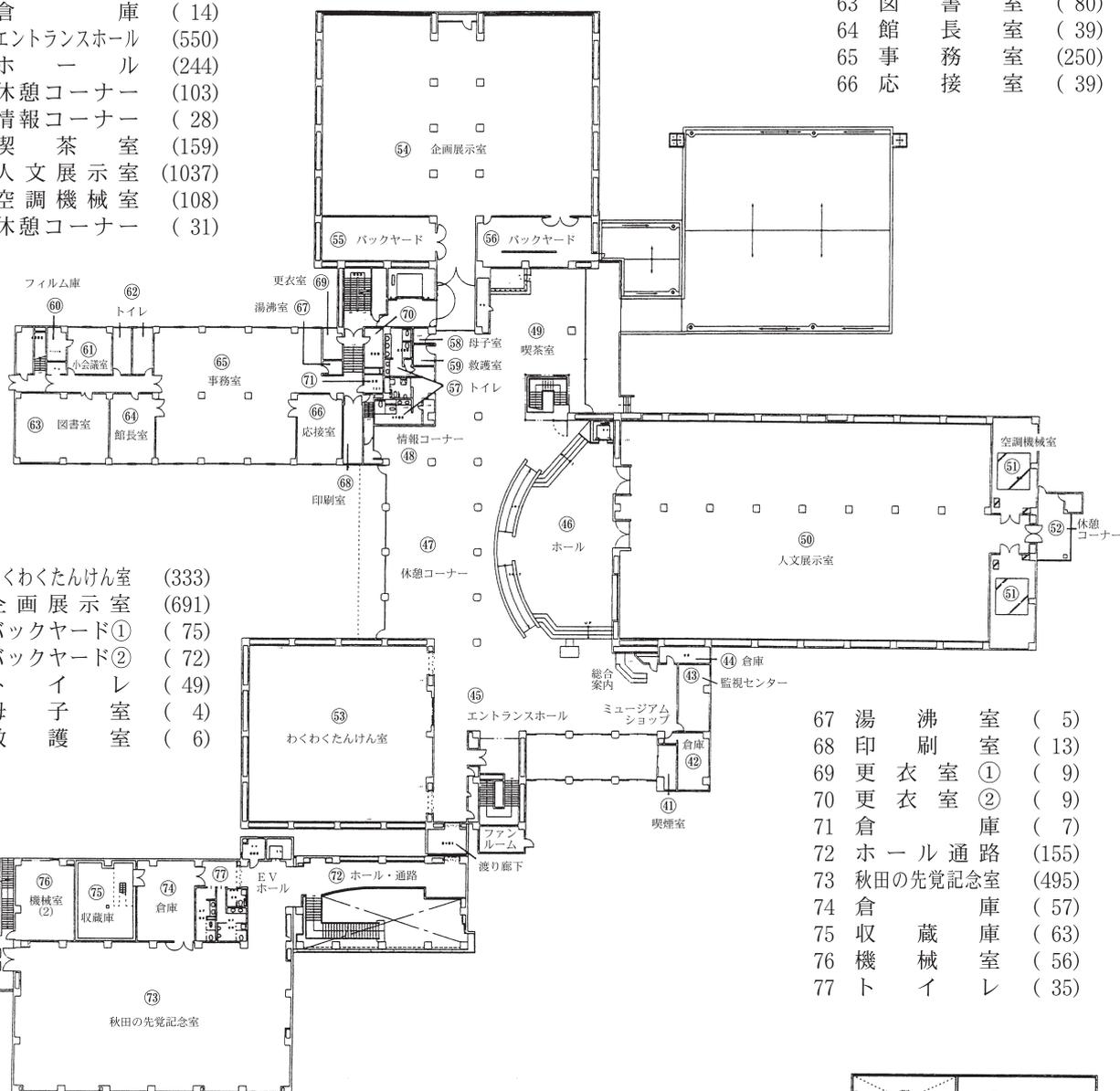
- 26 ホール (242)
- 27 菅江真澄資料センター展示室 (464)
- 28 検索閲覧室 (23)
- 29 スタディールーム (113)
- 30 収蔵庫 (40)
- 31 機械室 (83)
- 32 洞道 (42)
- 33 渡り廊下 (25)
- 34 中央監視室 (23)
- 35 熱源機械室 (206)
- 36 電気室 (110)
- 37 ボイラー室 (41)
- 38 冷凍機室 (73)
- 39 ハロゲンボンベ室 (16)
- 40 発電機室 (36)

部門別床面積(㎡)		階別面積(㎡)	
展示部門	3,620	1階	4,546.578
研究部門	388	2階	5,530.486
収蔵部門	1,999	3階	1,706.694
教育普及部門	595	屋階	162.44
計	6,602	計	11,946.198

〈2階〉

- 41 喫煙室 (8)
- 42 倉庫 (23)
- 43 監視センター (25)
- 44 倉庫 (14)
- 45 エントランスホール (550)
- 46 ホール (244)
- 47 休憩コーナー (103)
- 48 情報コーナー (28)
- 49 喫茶室 (159)
- 50 人文展示室 (1037)
- 51 空調機械室 (108)
- 52 休憩コーナー (31)

- 60 フィルム庫 (9)
- 61 小会議室 (26)
- 62 トイレ (29)
- 63 図書室 (80)
- 64 館長室 (39)
- 65 事務室 (250)
- 66 応接室 (39)

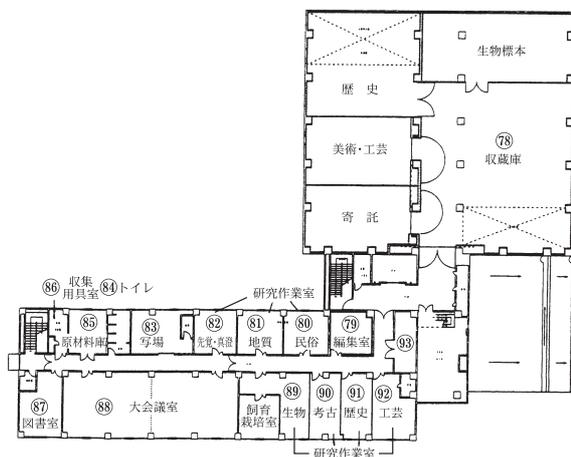


- 53 わくわくたんけん室 (333)
- 54 企画展示室 (691)
- 55 バックヤード① (75)
- 56 バックヤード② (72)
- 57 トイレ (49)
- 58 母子室 (4)
- 59 救護室 (6)

- 67 湯沸室 (5)
- 68 印刷室 (13)
- 69 更衣室① (9)
- 70 更衣室② (9)
- 71 倉庫 (7)
- 72 ホール通路 (155)
- 73 秋田の先覚記念室 (495)
- 74 倉庫 (57)
- 75 収蔵庫 (63)
- 76 機械室 (56)
- 77 トイレ (35)

〈3階〉

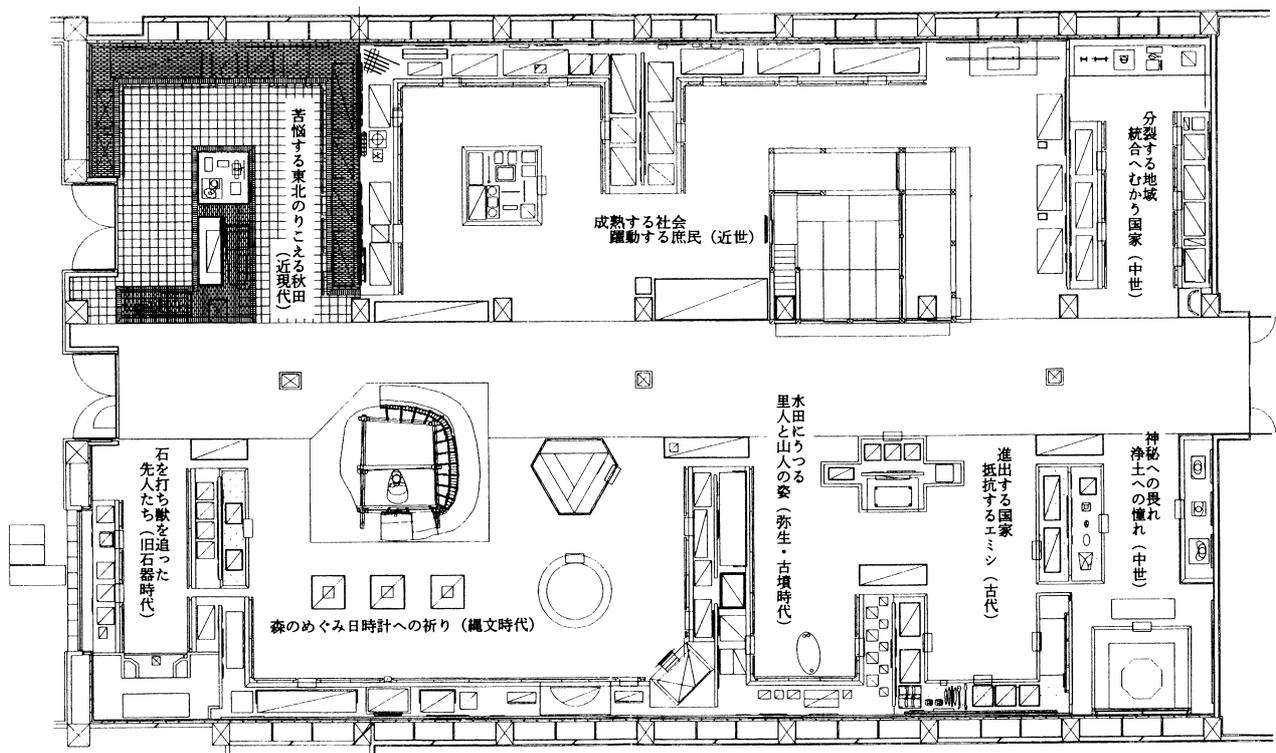
- 78 収蔵庫 (840)
- 79 編集室 (27)
- 80 研究作業室(民俗) (28)
- 81 " (地質) (28)
- 82 " (先覚・真澄) (27)
- 83 写場・暗室 (38)
- 84 トイレ (15)
- 85 原材料庫 (24)
- 86 収集用具室 (10)
- 87 図書室 (34)
- 88 大会議室 (158)
- 89 飼育栽培室・研究作業室(生物) (62)
- 90 研究作業室(考古) (27)
- 91 " (歴史) (27)
- 92 " (工芸) (39)
- 93 倉庫 (19)



### Ⅲ 展 示 室

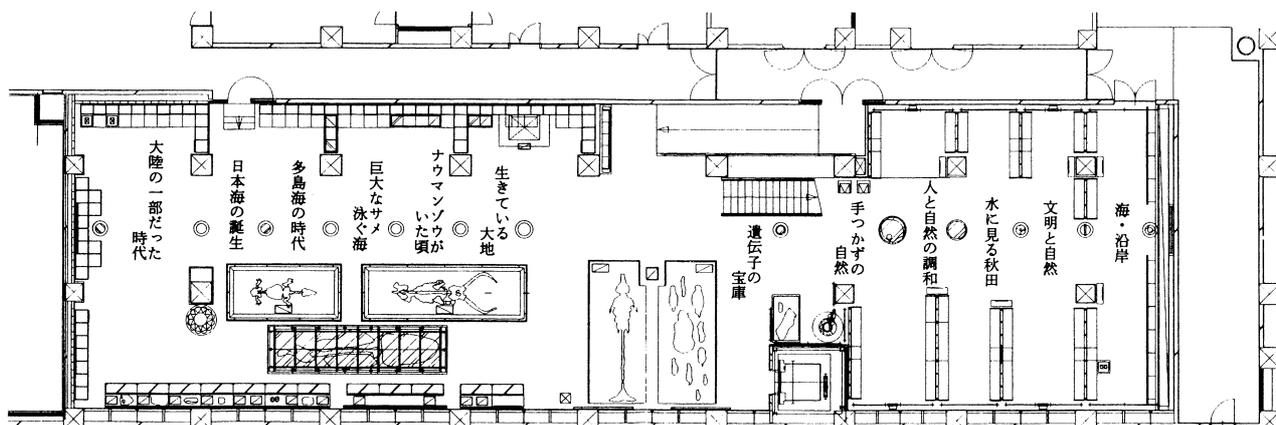
#### ◆人文展示室

旧石器時代から近現代までの、秋田の歴史と人々の生活史を紹介する。従来の強制的動線を排し、開放的な雰囲気の中で自由に好きなコーナーを見学できるように構成している。豊富な実資料のほか、縄文時代の竪穴住居や近世の商家が実物大で復元されており、実際に中に入って当時の雰囲気を体感することもできる。

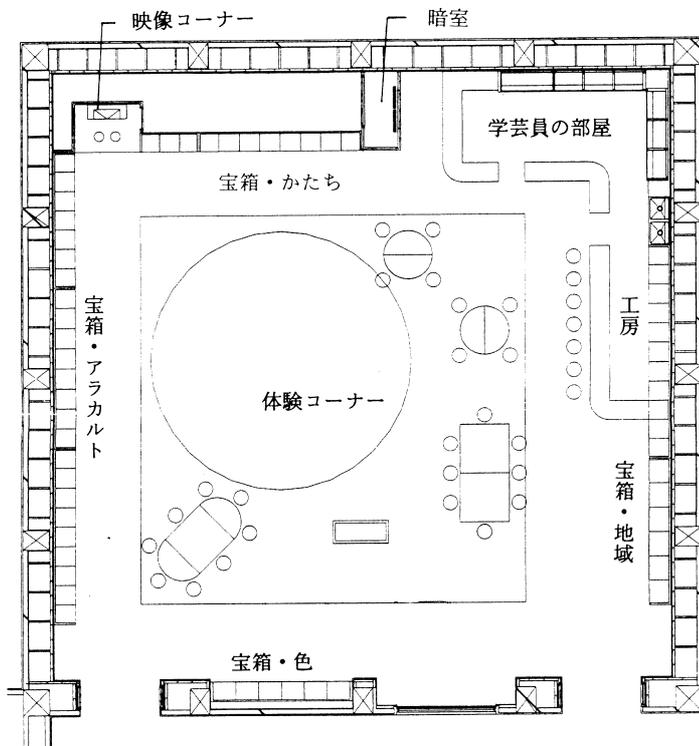


#### ◆自然展示室

「いのちの詩」(生物)・「大地の記憶」(地質)の二つの大テーマから、秋田の豊かな自然を豊富な実資料で紹介する。生きてそのまの姿の標本や、迫力ある大型骨格標本をはじめ、自然の魅力を余すところなく映し出す映像資料も展示している。



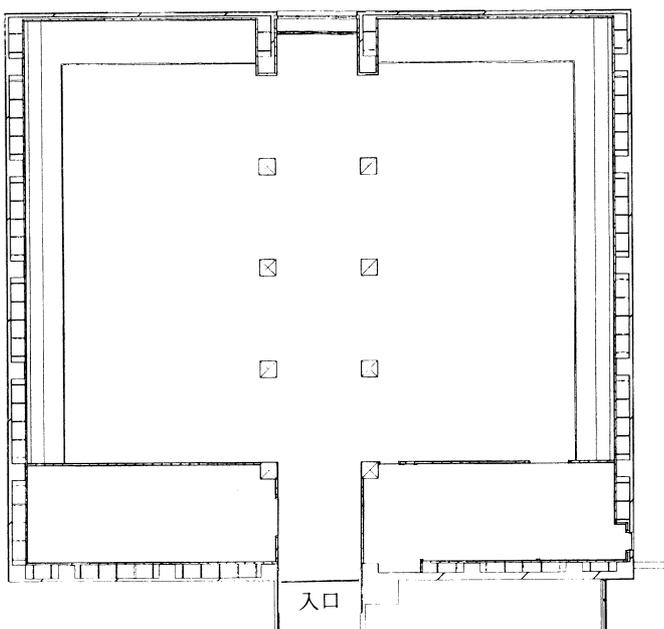
## ◆ わくわくたんけん室



「宝箱」に入った豊富なアイテムを使い、「みて、ふれて、しらべて、やってみる」をキーワードに設計した。楽しく体験活動をしながら秋田についていろいろな角度から学ぶことができる。パソコンや図書で調べものができる学芸員の部屋や、ビデオやDVDが見られる映像コーナーなどもある。



## ◆ 企画展示室



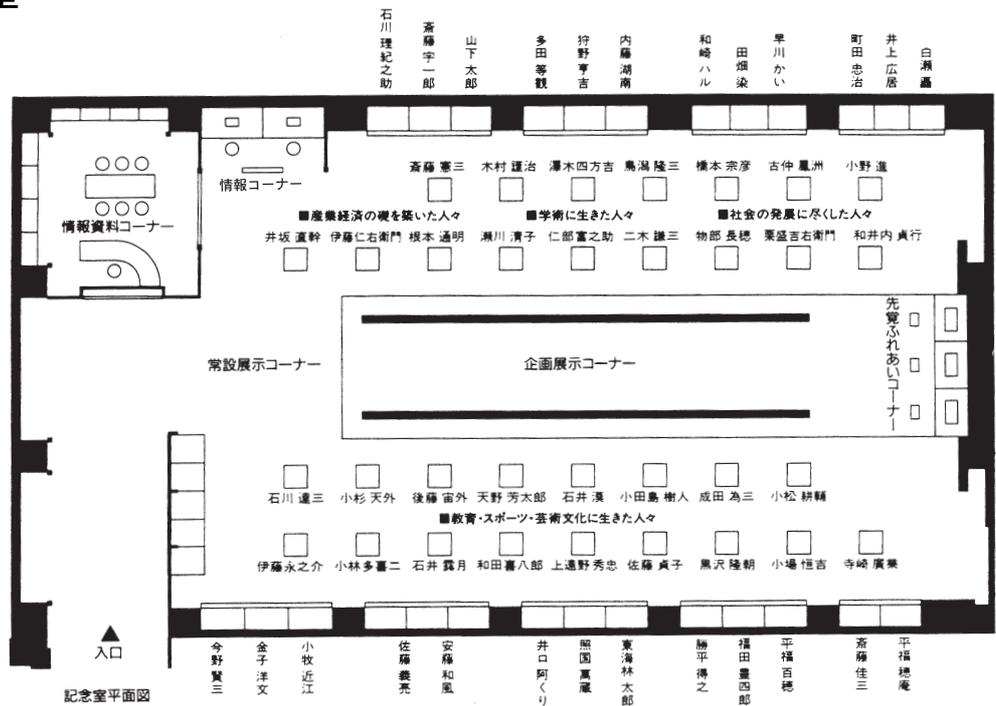
従来の展示室の約二倍の広さを確保。高透過ガラスを用いた壁面ケースは、すべてエア・タイトケースで、内部はつねに温湿度が一定に保たれている。これによって国宝・重要文化財クラスの資料を含む大規模な特別展も可能になった。



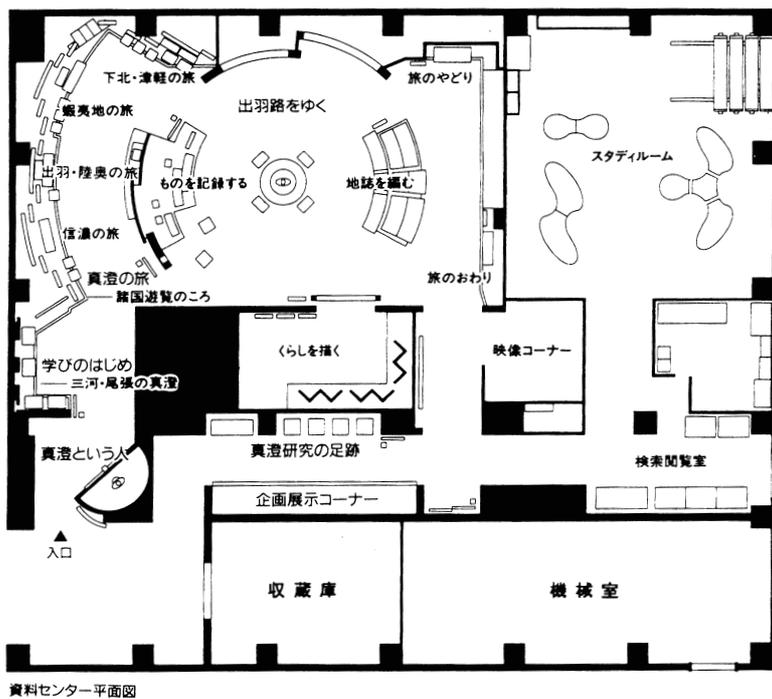
## ◆ 秋田の先覚記念室

近代秋田の豊かな産業や文化の礎を築いた多くの先覚の記録・資料を一堂に集めて展示している。情報資料コーナーでは先覚に関する著書や出版物の閲覧ができる。

パソコンなどの利用により、さまざまな情報を提供している。



## ◆ 菅江真澄資料センター



江戸時代の紀行家・文人菅江真澄の生涯と、彼が著した日記や図絵を展示するほか、多くの映像機器により、真澄の生きた時代などをわかりやすく展示している。

スタディールーム、検索閲覧室では、真澄をより深く学ぶことができる。

## ◆ 分館・旧奈良家住宅

所在地 秋田市金足小泉字上前8 電話 018 (873) 5009

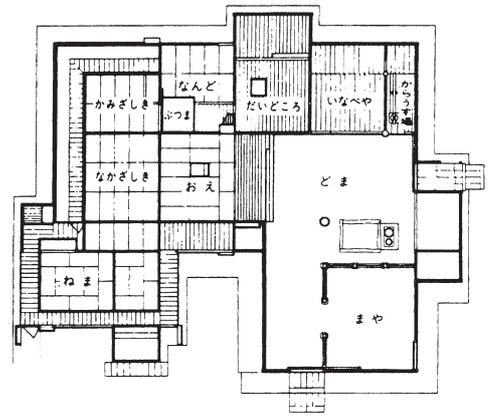
旧所有者 奈良恭三郎（昭和44年5月寄贈）

昭和40年5月29日 重要文化財（建築面積 459.08㎡）

旧奈良家住宅はJR東日本奥羽本線追分駅から2.5km、博物館から1kmの男潟北岸の小泉地区にある。

建築様式は秋田県中央部の海岸地帯の典型的な大型両中門の農家建築で、建築年代が明らかで、当初の姿をよく残している。

昭和40年に秋田県では最初の民家建造物としての国指定を受けたもので、県立小泉瀉公園の博物館に隣接する文化財として広く公開するため分館とした。奈良家は江戸時代初期にこの地に土着して以来の豪農で、現存の住宅は宝暦年間（1751～1763年）9代喜兵衛が銀70貫と3年の歳月をかけて完成したもので、棟梁は土崎港の間杉五郎八と記録されている。



敷地内にある附属屋は平成18年3月に登録有形文化財に指定された

**味噌蔵**……明治7年に建造された、土蔵造の建物

**座敷蔵**……明治23年に建造された、土蔵造の建物

**米蔵**……北米蔵は明治41年に、南米蔵は明治26年に建造

**明治天皇北野小休所（移築）**……明治14年に建造された、木造平屋建の建物

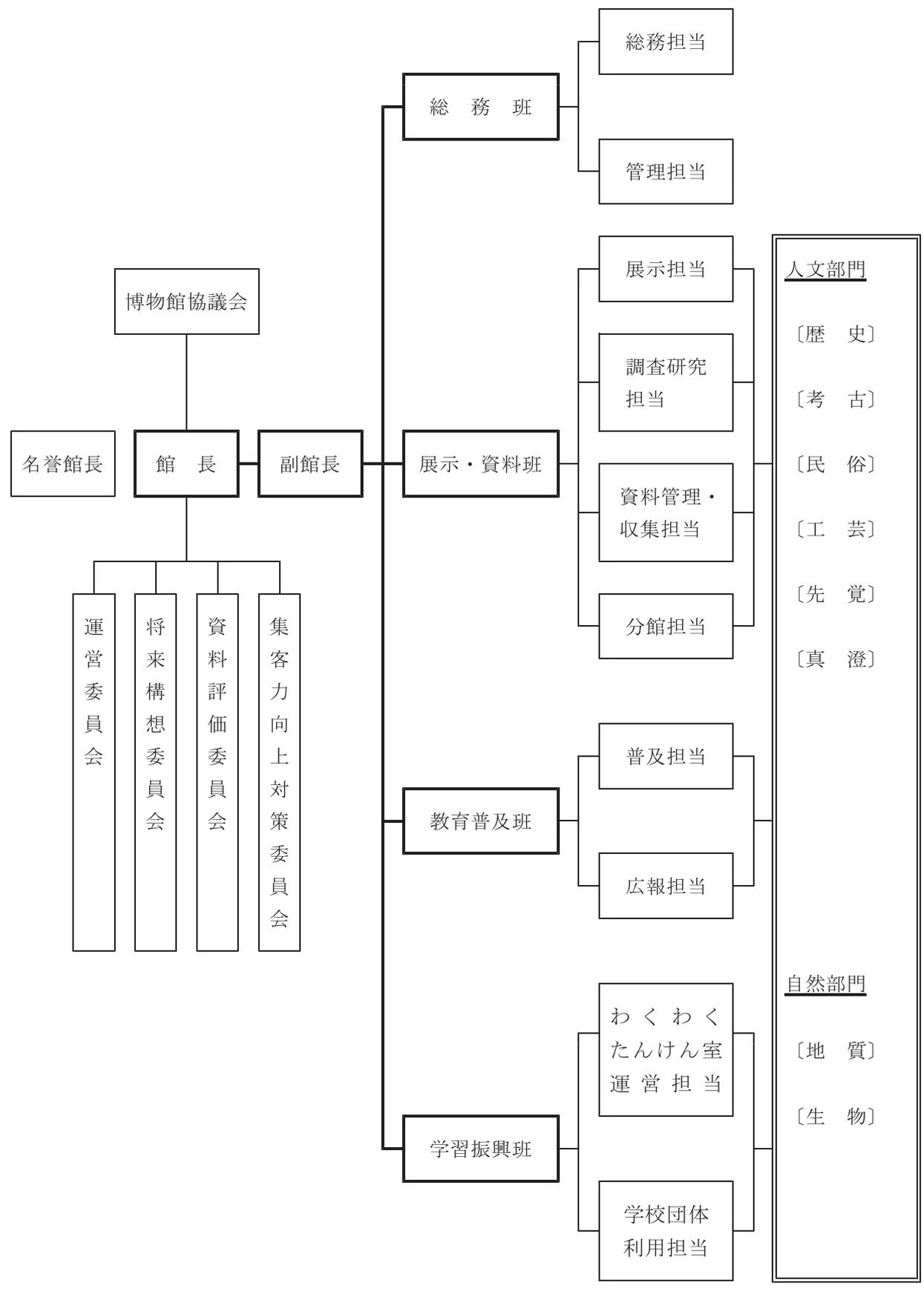
**和風住宅**……明治28年に建造された、木造二階建の建物

**文庫蔵**……大正13年に建造された、木造二階建の建物



分館全体配置図

IV 組 織



# V 職 員

班名	職 名	氏 名	各班の分掌と部門担当
	教育庁参事(兼)館長	風 登 森 一	総括
	副 館 長	小 玉 金 悦	館長の補佐
総務班	副主幹(兼)班長	伊岡森 亨	班の総括 危機管理に関すること
	主 査	小 松 直 美	服務、給与に関すること 歳入予算に関すること
	主 事	田 中 豊 人	管理、営繕に関すること 歳出予算に関すること
	技 能 主 任	高 橋 直 人	空調設備運転に関すること、施設設備管理に関すること
	技 能 主 任	大 川 一 成	公用車運転に関すること、施設設備管理に関すること
展示・資料班	主任学芸主事(兼)班長	船 木 信 一	班の総括 生物部門に関すること
	学 芸 主 事	渡 部 均	調査研究、展示企画、地質部門に関すること
	学 芸 主 事	藤 原 尚 彦	資料管理、展示企画、工芸部門に関すること
	学 芸 主 事	畑 中 康 博	展示企画、資料管理、歴史部門に関すること
	主 査(兼)学芸主事	新 堀 道 生	展示企画、資料管理、歴史部門に関すること
	主 査(兼)学芸主事	丸 谷 仁 美	展示企画、調査研究、民俗部門に関すること
教育普及班	副主幹(兼)班長	永 井 元	班の総括 生物部門に関すること
	主任学芸主事	梅 津 一 史	教育普及、広報、連携事業、生物部門に関すること
	学 芸 主 事	松 山 修	教育普及、広報、研修、真澄部門に関すること
	主 査(兼)学芸主事	吉 川 耕太郎	教育普及、広報、連携事業、考古部門に関すること
	主 査(兼)学芸主事	鈴 木 秀 一	教育普及、広報、研修、生物部門に関すること
学習振興班	副主幹(兼)班長	大 森 浩	班の総括 地質部門に関すること
	学 芸 主 事	今 川 拓	セカンドスクールの利用、先覚部門に関すること
	学 芸 主 事	戸 島 毅	わくわくたんけん室、研修、歴史部門に関すること
	学 芸 主 事	斉 藤 洋 子	わくわくたんけん室、研修、工芸部門に関すること
	学 芸 主 事	浅 利 絵里子	セカンドスクールの利用、民俗部門に関すること

[非常勤職員]  
 夏井 順一 (ボイラー)  
 國安 民男 (同)  
 吉田 良治 (守衛)  
 米川 亮道 (同)  
 五十嵐 一彦 (同)  
 木村 政広 (同)  
 松橋 敏雄 (工 作)

富岡 春菜 (展示解説・案内)  
 小玉 奈々子 (同)  
 佐藤 はづき (同)  
 皆川 歩美 (同)  
 木村 七緒子 (同)  
 種村 由貴 (同)  
 加賀谷 洋子 (同)  
 朝野 恵美 (同)  
 斉藤 花穂 (同)  
 山田 楓 (同)

宮本 康男 (学芸補助)  
 三浦 和恵 (同)  
 菊地 真樹子 (同)  
 佐々木 由衣 (同)  
 金 由美子 (同)  
 藤井 千里 (同)

[臨時的任用職員]  
 林 信久 (学芸補助)

## 事業の概要

---

## I 平成26年度博物館運営方針

県民の生涯学習の拠点として、県民とともに歩む博物館運営に一層努め、県民文化の向上に寄与する。

- 1 本県の生涯学習を支え、推進する館運営を積極的に行う。
- 2 県民のニーズに応える展示・教育活動等の在り方を追求する。
- 3 郷土秋田の自然や文化、歴史などに親しむことができる環境整備を図る。
- 4 県内外の博物館、類似施設、諸研究機関、ボランティア団体などとの連携を図る。

## II 平成26年度博物館事業計画

### 1 重点目標

- (1) 博物館活動の核となる調査研究活動の一層の充実を図り、知的資産を創造し、地域に還元する。
  - ア 男鹿・南秋地区を対象にした地域展の開催に伴い、ふるさと教育の充実に資する。
  - イ 館内調査研究報告会の改善・充実を図る。
- (2) 県民の文化的向上に資するため、郷土資料を中心とした資料の収集・保存・活用の推進を図る。
  - ア 中期的展望に立った計画的な資料の収集・整理及び収蔵スペースを確保する。
  - イ デジタルアーカイブ事業の成果の周知と、より効果的な収蔵資料の公開・活用の推進を図る。
- (3) 驚きや感動があり、親しまれる展示活動を推進する。
  - ア 県民のニーズに合致した見応えのある特別展・企画展を企画する。
  - イ 来館者の立場で、創意工夫した展示を心がける。
- (4) 各展示室の機能を検証し、展示室同士を有機的に結ぶ効果的利用について検討する。
  - ア 外部評価の検証をもとに展示室の特色を明確にする。
  - イ 各展示室の有機的なつながりを構築する。
- (5) 博物館活動の普及とサービスの一層の向上に努める。
  - ア 博物館教室やミュージアムトーク等への参加者増に努め、行動人の育成を図る。
  - イ 博物館活動の周知を図るために、より効果的な広報・普及の一層の強化に努める。
- (6) 「わくわくたんけん室」の充実や学校団体による博物館利用の支援に努める。
  - ア 博物館における体験活動についての情報・資料の収集とアイテムの開発に努める。
  - イ セカンドスクールの利用の促進・支援の強化を図る。
- (7) 「秋田の先覚記念室」「菅江真澄資料センター」の充実に努める。
  - ア 秋田の先覚に関する企画コーナー展の充実に努める。
  - イ 特別展「菅江真澄、旅のまなざし」において、PRに努め、菅江真澄の認知度を高める。

## 2 活動計画

### (1) 調査研究

#### ◇部門研究の推進

- ・考古 秋田県における旧石器・縄文時代の石材資源開発研究
- ・歴史 近世武家資料の調査  
男鹿半島の港湾開発史について  
守屋家資料の研究
- ・民俗 八郎潟漁撈習俗の変遷と周辺の伝説についての調査  
秋田県内の民間療法や伝承薬に関わる調査
- ・工芸 秋田県内におけるミノ・ケラ類の製作技術  
秋田県内における樹皮による編組品の研究
- ・地質 男鹿・南秋地区の露頭・化石産地等現況調査

- ・生物 秋田のスギに関する基礎的研究  
秋田県に生息する希少動物の生態調査  
男鹿半島の蛾類相調査  
佐々木明夫氏蛾類標本コレクション（シャクガ科）の整理とデータ整備  
秋田・男鹿市の海岸の漂流物調査
- ・真澄 真崎勇助の写文に見る真澄遊覧記
- ・先覚 多田等観に関する調査

#### ◇共同研究、地域研究、博物館学的研究の推進

- ・男鹿市及び南秋地域に関する地域研究
- ・来館者の利用動線調査

### (2) 資料収集管理

#### ◇資料収集・整理・保存・管理の徹底

#### ◇資料のデータベース化の推進

#### ◇収蔵庫管理の推進

#### ◇燻蒸消毒作業

- ・収蔵庫
- ◎燻蒸期間 9月1日（月）～9月8日（月）
- ・小型燻蒸機の運用

### (3) 展示

#### ◇展示活動

- ・企画展示室における企画展、特別展  
企画展「魅了する色と意匠－あきたの染めと織り」  
4/26(土)～6/15(日)
- 企画展「レピドプテラ ～チョウとガの自然史～」  
7/5(土)～8/24(日)
- 特別展「菅江真澄、旅のまなざし」  
9/20(土)～11/9(日)
- 企画展「地域展 男鹿・南秋の自然と文化」  
11/29(土)～4/5(日)
- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展  
「ゲシェーになった男・多田等観  
～日本人が見たチベット～」  
9/27(土)～11/30(日)

- ・菅江真澄資料センター企画コーナー展  
「真澄、学びの技法」 6/28(土)～8/17(日)  
「真澄、書に託した思い」 10/18(土)～12/7(日)  
「真澄、津軽の旅」 3/21(土)～5/10(日)
- ・ふるさとまつり広場  
鹿島流し 4/8(火)～6/29(日)  
七夕絵どうろう 7/1(火)～8/31(日)  
特別展「菅江真澄 旅のまなざし」関連  
「真澄のいた風景」写真展 9/20(土)～11/9(日)  
秋田の凧 11/11(火)～2/1(日)  
ひな人形・押し絵 2/3(火)～4/5(日)

(4) 教育普及

◇博物館教室等

- 1 「真澄に学ぶ教室」講読会 前期  
4/26(土) 5/24(土) 6/21(土) 7/19(土)
- 2 旧奈良家住宅見学会～金足の豪農を訪ねる～  
5/3(土)
- 3 化石と地層の観察会  
現地観察 5/18(日)  
学習会 5/25(日)
- 4 古文書大學校  
5/21(水) 5/28(水) 6/4(水) 6/18(水)  
10/1(水) 10/15(水) 10/29(水) 11/12(水)
- 5 はじめての考古学  
6/28(土) 7/26(土) 8/23(土) 9/27(土)  
10/25(土) 11/22(土) 12/13(土)
- 6 楽しいしぼり染め -研究コース-  
6/29(日) 7/20(日) 8/10(日) 9/21(日)  
他に3日任意出席 合評会11/9(日)
- 7 楽しいしぼり染め -中級コース-  
6/29(日) 7/8(火)～7/11(金) 7/23(水)  
8/27(水) 8/28(木) 10/1(水)
- 8 昆虫教室 ～採集と標本作り～  
採集日 7/20(日)  
標本作り 8/17(日)
- 9 初めての古文書解読  
7/27(日) 8/3(日) 8/10(日)  
8/17(日) 8/24(日) 8/31(日)
- 10 竹細工製作教室 7/27(日)
- 11 葉脈標本でしおりを作ろう 8/2(土)
- 12 子供の土器づくり体験 8/3(日) 8/17(日)
- 13 子供と大人の石器づくり体験 8/9(土)
- 14 ゼロからはじめるダイビング 8/10(日)
- 15 アイの生葉で染める 8/19(火)
- 16 旧奈良家住宅・三浦館合同見学会  
～金足の豪農を訪ねる～ 8/30(土)
- 17 弘田柵跡調査事務所40周年記念  
弘田柵跡とは何か～発掘調査の歴史を振り返る～  
(共催：弘田柵跡調査事務所)  
9/14(日) 9/21(日) 9/28(日)
- 18 「真澄に学ぶ教室」講演会  
第1回(特別展付帯事業) 9/27(土)
- 19 「真澄に学ぶ教室」講演会  
第2回(特別展付帯事業) 10/11(土)

- 20 「真澄に学ぶ教室」講演会  
第3回(特別展付帯事業) 11/1(土)
- 21 「秋田の先覚記念室」講演会  
(企画コーナー展付帯事業) 10/12(日)
- 22 「真澄に学ぶ教室」講読会 後期  
11/29(土) 12/20(土) 1/24(土)  
2/21(土) 3/21(土)
- 23 ゼロからはじめるワラ仕事  
12/10(水) 12/17(水) 1/7(水) 1/14(水)  
1/21(水) 1/22(木) 1/23(金)
- 24 名誉館長館話(前期)－歴史と文化を語る－  
5/16(金) 5/30(金) 6/13(金)  
6/27(金) 7/11(金) 7/25(金)
- 25 名誉館長館話(後期)－先覚・真澄－  
9/12(金) 9/26(金) 10/10(金)  
10/24(金) 11/14(金) 11/28(金)

◇展示付帯事業

- ・企画展 魅了する色と意匠－あきたの染めと織り  
展示解説
- ・企画展 レピドプテラ～チョウとガの自然史～  
展示解説
- ・特別展 菅江真澄、旅のまなざし 展示解説
- ・企画展 地域展「男鹿・南秋の自然と文化」  
展示解説

◇県庁出前講座

◇県内博物館等類似施設との連携

- ・秋田県博物館等連絡協議会
- ・秋田市内文化施設連絡会議

◇博物館友の会との連携

◇博物館ボランティア「アイリスの会」との連携

◇各種研修・実習等の受け入れ

- ・博物館実務実習
- ・教職10年経験者研修

## (5) 広報・出版

---

### ◇広報活動

- ・事業に関する広報計画の策定と実施  
展示・イベント広報  
配布・発送計画
- ・その他の広報活動の実施と改善  
ホームページ、フェイスブックページの運用  
プレスリリースの充実

### ◇出版物の刊行・配布

- ・年報 平成26年度 A 4判 44頁 800部
- ・博物館ニュース No.159・160  
A 4判 8頁 各2,300部
- ・秋田県立博物館研究報告 第40号  
A 4判 100頁 700部
- ・広報紙「真澄」 No.32 A 4判 8頁 1,500部
- ・真澄研究 19号 A 5判 100頁 500部
- ・秋田の先覚記念室企画コーナー展  
「ゲシェーになった男・多田等観」展示解説資料  
A 4判 8頁 1,000部
- ・展示ポスター、広報チラシ  
企画展「魅了する色と意匠－あきたの染めと織り」  
企画展「レピドプテラ～チョウとガの自然史～」  
特別展「真澄、旅のまなざし」  
企画展「地域展 男鹿・南秋の自然と文化」

## (6) 学習振興

---

### ◇わくわくたんけん室の運営

- 1 一般及び団体利用への支援・指導
- 2 体験アイテムの保守管理
- 3 室内全体の保守管理
- 4 消耗品等の在庫管理と発注
- 5 体験アイテムの開発
- 6 季節アイテム、季節イベントの計画と運営
- 7 ボランティア等の研修活動への支援
- 8 わくわくたんけん室の運営方法の検討

### ◇学校団体による博物館利用の支援

- 1 セカンドスクール利用の支援・指導
- 2 セカンドスクール利用の促進
- 3 出前授業の利用促進
- 4 学校団体利用数の集計と報告
- 5 職業体験、インターンシップの対応

### ◇研修

- 1 長期社会体験研修員への指導

## (7) 分館・重要文化財旧奈良家住宅

---

### ◇分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を平成26年4月1日から平成27年3月31日（火）まで公開。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開。附属屋については内部公開の希望に応えるために5月3日（土）と8月30日（土）に公開し学芸職員が解説を行う。

## Ⅲ 平成25年度事業報告

### 1 調査研究活動

調査研究活動は部門研究、共同研究、地域研究、博物館学的研究という区分で進めてきた。学芸職員は年度当初に調査研究テーマを設定し、年度末には業務報告の一環として調査研究報告会を実施している。

〈部門研究〉主に部門に関連する調査や研究が進められた。

〈博物館学的研究〉館内の温湿度管理についての調査やわくわくたんけん室の運営改善、セカンドスクールの利用における秋田の先覚記念室の活用促進、企画展の出前

授業への利用などについて研究が行われた。

〈地域研究〉男鹿南秋地域を対象として、全部門が調査研究を行った。

「研究報告39号」には、部門調査や展示等に関連した論文・短報が6件まとめられた。

なお、調査研究報告会の運営については、平成26年度に大幅な見直しと運営方法の検討を行う予定である。

#### ▶ 部門研究

##### ◇考古

「秋田県における旧石器・縄文時代の石器研究」

旧石器時代石器群の編年と放射性炭素年代測定との検討、縄文時代における打製石斧の検討、男鹿産・田沢湖産黒曜石の調査と分析を行い、学会誌等での報告・発表、人文展示室可変展示コーナーでの展示を行った。

##### ◇歴史

「男鹿地域の港湾開発史」について

船川港湾事務所と秋田県農林水産部水産漁港課が所有する資料について調査を行った。港湾設計図や築港当時の写真等を確認した。写真については、工事アルバムなどに当時の職員が個人的に撮影したものが保管されており、未公表のものが多数あった。26年度に予定されている地域展での公開を考えている。

「御用聞町人河村家の調査」

当館蔵伊沢美佐子家資料に含まれる河村家文書をもとに、河村家の事跡と秋田藩御用聞町人の概要について調査した。その結果、河村家は元禄年間から幕末まで御用聞町人の地位にあり、山師、川方御用などを勤めたこと、明和年間に山師を辞めるまでは多額の調達金を上納していること、秋田藩の御用聞町人は幕末に70人ほどおり、19世紀に急増したこと、御用聞の中では山師が最上席の地位にあることなどが判明した。

「守屋家資料の調査」

守屋家は平鹿郡八沢木村の波宇志別神社別当を勤めた家で、同家の資料群は昭和50年の本館開館以来収蔵されている。

守屋家資料は書状類を中心に未整理のものが多数あ

る。守屋家資料の整理は、博物館教室「古文書大講堂」を開催し、教室参加者とともに整理作業を進めた。

作業の過程で従来知られていなかった歴史像が判明した。その結果は25年度の研究報告会で発表した。

##### ◇民俗

「瀬川清子に関する調査」

鹿角市先人顕彰館にある瀬川清子関連資料の写真撮影ならびに文献調査を行った。あわせて、瀬川清子が係わっていた昭和初期の全国山村調査ならびに海村調査に関する資料と瀬川清子の採集手帖の記述とを比較し、調査方法について検討した。

「秋田県内の自然療法に関わる風俗・歴史調査」

秋田県内の市町村史等の書籍から、自然療法にまつわる記述を収集した。薬用植物の一部は、平成25年度企画展において乾燥させた実物と写真を展示した。

##### ◇工芸

工芸部門では、「秋田県内におけるワラ細工技術」について3年前より調査を行っている。25年度は、履物類を中心とした実物資料について県南地区、男鹿南秋地区に続き新たに県北地区と由利本荘市の資料館8館を調査した。8館合わせて110点の履き物について、製作技術の細部にわたる調査を行うとともに画像データとして記録に残し、調査内容をまとめることができた。

また、これまで県内18館で調査した543点をもとに、秋田県のワラ細工の履物類に関する種類ごとの大まかな製作技術について捉えることができた。

#### ◇生物

##### 「博物館周辺の虫こぶ」

博物館周辺の植物に形成されている虫こぶについて観察、調査した。観察区域が限定的であったことから、昨年の調査に加えて新たに観察できた虫こぶはなかった。博物館周辺の自然観察に一層のふくらみをもたせるためには、広域かつ継続的な観察が求められる。

##### 「トミヨ属の背棘数について」

秋田県内に生息するトミヨ属の淡水型と雄物型の背棘数についての変異を、F検定とt検定で検証した。

##### 「秋田県に生息する希少動物について」

森吉山のクマゲラ、栗駒山のハコネサンショウウオの繁殖活動について、継続調査を実施した。クマゲラの雛の巣立ちに人為的な影響があり、次年度以降の調査について再検討する必要性を感じた。また、県初記録となった男鹿市のヒラスズキと30年振りに秋田で確認されたシロフクロウについて、解剖から知り得た所見を報告した。

##### 「秋田県産小蛾類の標本と分布資料の収集」

一昨年・昨年から継続して、県内における採集を行っている。25年度は地域研究をかねて男鹿半島での採集も行った。また、フェロモントラップによるスカシバガ科の調査を行った。県内に産すると予想されるがこれまで未採集の科が5科となった。スカシバガ科についてはこれまでの県内採集記録をまとめて報告した（秋田自然史研究 65）。ヒゲナガガ科については県内に産する種ほぼ全種が採集できたので、秋田県立博物館研究報告39号で採集記録を報告した。

##### 「佐々木明夫氏蛾類標本コレクション（シャクガ科）の整理とデータ整備」

佐々木明夫氏（秋田市）から寄贈される秋田県産を主としたシャクガ科蛾類標本約9,000点の同定とデータベース化を行っている。25年度は1割強しか進んでいない。同定にあたっては高橋雅彌氏（秋田市、元当館職員）の協力を得て進めている。

#### ◇地質

##### 「『わくわく科学展』での地質現象のモデル化」

『わくわく科学展』は実験をとおして科学のおもしろさを感じることを目的の展示である。ここに地震の液状化現象を実感してもらう実験装置を置いた。地面を砂に水を含ませた物でやりたかったが、密閉が難しいため代わりになる物を試行錯誤した。粉のついた米で代用することで水を含んだ砂よりも分かりやすい実験装置にすることができた。

##### 「安田海岸の地層の調査」

平成25年8月の集中豪雨により、男鹿半島でも土砂災害が起これ、地層観察や化石を採集できる露頭も一部が崩落した。男鹿市五里合の安田海岸でも一部の箇所でも崩落がおき、崩落した土砂や新たに露出した地層などを調べ、化石の産状を調査した。

#### ◇秋田の先覚記念室

##### 「飛行詩人・佐藤章に関する資料調査」

秋田初の民間飛行士として活躍した佐藤章に関する資料調査を行った。遺族よりお預かりした膨大な資料は、分類・整理して目録を作成した上で、美郷町学友館に引き渡した。

##### 「セカンドスクール利用における秋田の先覚記念室の活用促進のために」

秋田の先覚記念室について、セカンドスクール利用の需要を掘り起こし、有効活用していただくための方策について考察し、館内報告会で発表した。

#### ◇菅江真澄資料センター

##### 「高階貞房著『おほまあらこ』の翻刻」

菅江真澄と交流のあった秋田藩士の高階貞房は、本居大平門下の国学者でもあった。貞房の随筆『おほまあらこ』の翻刻を、昨年度に引き続いておこなった。今後、貞房の国学性との比較から、菅江真澄の国学性を考察したい。25年度は、引用文献に当たるとともに、意味を取りながら句読点や濁点を附し、文章として整える作業をおこなった。翻刻は、『真澄研究』第18号に発表した。

## ▶ 地域研究

### ◇地域研究

当館では昭和50年の開館以来、鹿角市をはじめとして、各地で地域研究を行っているが、男鹿市及び南秋地域は、これまで地域研究を行っていない地域である。本地域は人文、自然の両面において興味深い研究テーマを持った地域であり、秋田県内の調査研究を蓄積していく上で欠かすことのできない地域であることから、平成24年度より地域研究を実施している。25年度は昨年度に引

き続き各部門で設定した研究テーマに基づき基礎調査を行ってきた。また、地域研究の成果については平成26年度の地域展で公表することとしており、出展資料や展示構成について検討を進めている。

## ▶ 博物館学的研究

### ◇博物館学的研究

「科学的事象の展示等への活用方法」

企画展「わくわく科学展」に向け実験内容選択を主に物理の分野から検討した。決定した実験内容をいかに展示するかについては、担当職員で協議するほか職場体験やセカンドスクールで来館している児童生徒に協力してもらった。

「わくわくたんけん室の運営改善について」

東日本8都県の公立博物館の体験学習室を調査し、体験学習室としての本館のわくわくたんけん室の一般的な部分と特別な部分を確認した。また、本館の月別・利用者層別の入館者数とわくわくたんけん室で行っているものづくりの月別・アイテム別の作成数とともに、本室の具体的な利用状況を調べた。それらの調査結果を踏まえ、本館の特色である宝箱システムの活かし方や、アイテムの効果的な提示方法、新たなアイテムの開発についての研究を行った。

## ▶ 館内調査研究報告会

### ◇館内調査研究報告会

平成26年3月3日(月)午前9時～午後4時10分の日程で開催した。博物館協議会、博物館友の会、博物館ボランティア「アイリスの会」、近隣の教育施設に報告会の開催を案内し、当日は15名の参加を得ることができた。

1. 収蔵庫・企画展示室の保存環境について  
鈴木 秀一
2. セカンドスクールの利用における秋田の先覚記念室の活用促進のために  
今川 拓
3. わくわくたんけん室の運営改善について  
佐藤 久男
4. 来館者アンケートから見えるもの  
永井 元
5. 「わくわく科学展」小学校での出前授業  
大森 浩
6. トミヨ属の背棘数について  
信太 忠夫
7. 男鹿市宮沢海岸の蛾類  
梅津 一史

8. 秋田県に生息する希少動物について  
船木 信一
9. 瀬川清子と民俗学  
丸谷 仁美
10. 秋田藩で使われた葉 一日記、佐竹御秘方より－  
浅利絵里子
11. 秋田県内におけるワラ細工技術  
－県北地区・由利本荘市の履物類－  
藤原 尚彦
12. 守屋家資料の整理と調査  
－博物館教室「古文書大スクール」の活動を通して－  
畑中 康博
13. 今年度考古部門の主な調査研究の概要報告  
－黒曜石・旧石器編年・縄文石器－  
吉川耕太郎
14. 男鹿に関する私的知見－言葉と文体と－  
松山 修
15. 男鹿地域の港湾開発史について  
(船川港・北浦港を中心に)  
戸島 毅
16. 秋田藩御用聞町人河村家について  
新堀 道生

研究報告等の発行

◇『研究報告』第39号

博物館周辺で観察された数種の虫癭 永井 元  
 秋田県のヒゲナガガ科（鱗翅目） 梅津 一史  
 秋田市内で採集されたカバマダラの記録 梅津 一史  
 秋田県男鹿市で採集されたヒラスズキ 船木 信一  
 名誉館長館話実施報告抄  
 高橋 萬年・木村 文助・下田憲一郎 新野 直吉  
 『復古記』編纂事業と秋田藩維新史像の誕生  
 畑中 康博

◇『真澄研究』18号

「諸般に亘る博識を辿って－菅江真澄随筆連想－」 新野 直吉  
 「講演記録 静岡と星座の方言－内田武志の軌跡Ⅱ－」 石井 正己  
 「講演記録 秋田の伝説と真澄  
 －（貞任伝説）生成の軌跡とその背景－」 阿部 幹男  
 「翻刻・随筆『おほまあらこ』（高階貞房著）」 松山 修

2 資料収集管理活動

寄付や購入、委託製作などで新たに登録された資料は、946点である。資料収集については、予算の関係で計画を立てにくい状況にある。

資料の貸出は県内外資料館・博物館・学校団体等に17件、特別利用は資料の写真掲載を中心として110件あった。

また、昨年公開したスマートフォン、タブレット端末用のアプリケーション「秋田県立博物館デジタル収蔵庫（秋田県博HD）」へは新たに60点の資料を追加し、計160点を公開した。なお、撮影した500点の画像については、県立図書館のアーカイブ上で全て公開した。

平成25年度収集資料一覧

部門	資料名	数量	受入区分
考古	『秋田考古学』論文図版 版面	140	寄付
	土器等考古資料	19	寄付
歴史	諸城絵図	147	寄付
	軍令陸第3号、陸軍礼式令 他	10	寄付
	古写真、大部家過去帳	7	寄付
	諸上納役所預り札	6	寄付
	旗、秋田市地図	2	寄付
民俗	雛人形	1	寄付
	押絵、絵葉書 他	47	寄付
	水車 他	4	寄付
	天神人形（八橋人形） 他	9	寄付
	雛人形	1	寄付
	振り袖、帯 他	28	寄付
	カセットレコーダー 他	74	寄付
	天神人形 他	23	寄付
	天神人形 他	3	寄付
	龍角散葉箱	1	寄付
	秋田住重作刀	1	寄付
地質	魚化石、石英、珪化木、ジャスパー	15	寄付
生物	クジラ類頭骨 他	2	寄付
	カバマダラ	2	寄付
	維管束植物標本	237	寄付
	維管束植物標本	40	寄付
	カバマダラ	1	寄付
	スズハモ	1	委託製作
	ヒラスズキ	1	委託製作
先覚	辻 翠蘭「菊図」 他	2	寄付
	根本通明関係資料	5	寄付
	秋田北盟寮関係資料	91	寄付
真澄	小西宮太郎宛書簡	2	寄付
	菅江真澄詠歌 他	24	寄付
合計（件数）		946	(33)

平成25年度資料収集状況

平成26年3月末日現在の資料総数（ ）は平成25年度の増減分

区分	購入	寄付	委託製作	所管換え	採集	その他	合計
総集	2,917	137	626	18	0	0	3,698 (0)
美術	415	25	2	8	0	0	450 (0)
工芸	7,371	5,826 (1)	1	13	0	0	13,211 (1)
歴史	5,125	2,362 (172)	113	184	0	0	7,784 (172)
考古	245	2,142 (159)	31	190	0	0	2,608 (159)
民俗	2,280	6,883 (191)	120	36	4	0	9,323 (191)
生物	17,345	73,631 (282)	7,701 (2)	36	1,568	0	100,281 (284)
地質	3,556	2,830 (15)	1,408	18	3,629	0	11,441 (15)
先覚	131	3,106 (98)	12	0	0	2	3,251 (98)
真澄	143	1,746 (26)	11	300	0	0	2,200 (26)
合計	39,528 (0)	98,688 (944)	10,025 (2)	803 (0)	5,201 (0)	2 (0)	154,247 (946)

平成25年度館蔵資料貸出状況

目的別

貸出先	県内外別			目的別				計
	県内	県外	計	展示	研究	教材	資料	
博物館等	3	2	5	4	1	0	0	5
教育機関	大学	0	0	0	0	0	0	0
	高等学校	2	0	2	0	0	2	2
	中学校	0	0	0	0	0	0	0
	小学校	2	0	2	0	0	2	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
研究所・文化団体	2	0	2	2	0	0	0	2
出版報道機関	0	1	1	0	0	0	1	1
都道府県	0	0	0	0	0	0	0	0
市町村	4	1	5	4	1	0	0	5
個人	0	0	0	0	0	0	0	0
計	13	4	17	10	2	4	1	17

▶ 平成25年度資料特別利用状況

利用者	県内外別			目的別							
	県内	県外	計	出版物	映像	広報・HP	市町村誌	展示資料	研究資料	その他	
博物館	都道府県立	0	2	2	1	0	0	0	0	1	0
	市町村立	0	4	4	0	0	0	0	4	0	0
	その他	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0
企業	出版	10	22	32	27	0	3	0	0	1	1
	映像	7	3	10	0	6	2	0	0	0	1
	T V	7	5	12	1	10	1	0	0	0	0
	その他	2	5	7	2	0	1	0	3	0	1
教育機関	大学	0	2	2	0	0	0	0	2	0	0
	その他	2	0	2	1	0	1	0	0	0	0
都道府県	6	3	9	4	0	2	1	0	0	0	2
市町村	7	2	9	1	2	2	1	0	0	0	3
個人	17	3	20	14	0	5	0	0	0	0	1
計	58	52	110	51	18	17	2	10	2	9	

部門別

部門	利用数	利用内容					
		写真撮影	写真掲載	フィルム借用	映像録画	館内閲覧	その他
工芸	1	0	1	0	0	0	1
考古	5	0	4	1	0	0	2
歴史	22	4	18	2	1	1	14
民俗	14	1	9	1	4	0	8
生物	3	1	2	0	0	0	1
地質	2	0	1	0	1	0	1
先覚	14	0	13	2	1	1	3
真澄	45	1	41	2	0	0	31
その他	2	2	2	0	0	0	0
計	108	9	91	8	7	2	61

※利用内容は重複があるので、実際の利用数よりも多い。

▶ 燻蒸消毒および虫・菌害管理

燻蒸作業は平成25年9月2日（月）～9月9日（日）に実施した。薬剤は酸化プロピレン製剤（商品名アルプ）を使用した。燻蒸箇所は3階収蔵庫である。

小型燻蒸機は酸化エチレン製剤により、寄贈資料や借用資料の搬入時に使用した。25年度の稼働回数は14回である。

また粘着トラップによる昆虫などの侵入状況調査を継続して実施した。

3 展示活動

25年度の特別展は、「あきた大鉄道展」を夏～秋に、企画展は春に「霊峰鳥海に祈る人びと」、冬に「わくわく科学展」、「秋田のくすり今昔物語」を実施した。あきた大鉄道展は、リニューアル以降の最多観覧者数を更新する好評振りだった。

菅江真澄資料センターでは3回、秋田の先覚記念室では1回の企画コーナー展を実施。人文・自然展示室の可

変展示は9回、ふるさとまつり広場では4回の展示を行った。広場ではこの他に鉄道展関連展示として「鉄道アートギャラリー」を実施した。

また、美郷町学友館との共同企画展「菅江真澄と歩く美郷町」を学友館で、県立図書館特別展示室では図書館、公文書館と共同で「秋田県立博物館出張展示 春の小さな鉄道展」を実施した。

▶ 企画展ほか

◇企画展「霊峰鳥海に祈る人びと」平成25年4月27日（土）～6月16日（日）

<展示概要>

県南部に位置する鳥海山は、古くから人びとの信仰の対象として崇拝されるとともに、薬師如来を本地とする霊場として繁栄しつづけてきた。

平成20年から21年にかけて、山形秋田両県の関連史跡が指定され、「史跡鳥海山」になった。本展示では、山形県遊佐町、にかほ市、由利本荘市の鳥海山信仰に関連する資料を紹介し、鳥海山信仰の歴史と文化を紹介した。



＜展示構成と主な展示資料＞

- 第1章 大物忌信仰と鳥海山  
銅造薬師如来坐像（龍頭寺蔵）、日本三代実録（県立図書館蔵）
- 第2章 鳥海山と修験道  
鱧口（鳥海山大物忌神社蔵岡口ノ宮蔵）、比良衛・多良衛像（開山神社蔵）、金銅装笈（個人蔵）
- 第3章 鳥海山と薬師信仰  
銅造薬師如来坐像・銅造十二神将像（長瀨寺蔵）、木造十二神将像（森子大物忌神社蔵）
- 第4章 宿坊と道者  
旅人止宿御届帳（個人蔵）、参拝人名簿（個人蔵）
- 第5章 農業神としての鳥海山  
牛玉宝印版木（個人蔵）、掲額「田農神」（個人蔵）
- 第6章 山頂をめぐる争い  
鳥海山張抜（鳥海山大物忌神社蔵岡口ノ宮蔵）

- 第7章 補任状  
補任状（個人蔵）
- 第8章 民間信仰と鳥海山  
聖観世音執子覚帳（個人蔵）、版木「鳥海山大神」（個人蔵）
- 第9章 鳥海のみほとけ  
木造阿弥陀如来坐像（龍頭寺蔵）、懸仏（個人蔵）、木造聖観音簿雑坐像（個人蔵）
- 第10章 明治維新と鳥海山信仰  
重学院文書（由利本荘市郷土文化保存伝習施設矢島郷土資料館蔵）、女人参詣図絵馬（龍頭寺蔵）、復飾認可状（個人蔵）
- 第11章 描かれた鳥海山  
象潟図屏風（にかほ市象潟郷土資料館蔵）、象潟真景図（蚶満寺蔵）

担当：新堀 道生（歴史部門）  
丸谷 仁美（民俗部門）

◇特別展「あきた大鉄道展」

- ＜前期＞小特集：機関車・電車のものがたり  
平成25年7月6日（土）～8月25日（日）
- ＜後期＞小特集：ふるさとの駅舎  
平成25年9月10日（火）～10月20日（日）

＜展示の趣旨＞

- 1. 鉄道資料を秋田の近現代史を証言する歴史資料としてとらえ直し、秋田鉄道史の視座から本県発展の歴史を県民に示す。
- 2. 安心・安全運行に心がける秋田県内の公共交通機関各社の取り組みを示し、児童・生徒のふるさと教育、キャリア教育に利する。
- 3. ファン層の厚い鉄道を展示テーマとすることで、県外観光客を秋田県に呼び込み、魅力ある秋田県の文化施設を全国へアピールする。

＜展示構成と主な展示資料＞

- 1. 鉄道はダイナミック  
サボ、行き先方向幕、ヘッドマーク、SL部品、SL模型、写真
- 2. あきた鉄道の歴史  
写真、歴史資料、レール、架線、保守用車両、鉄道部品、模型
- 3. 昔の鉄道  
羽後交通横荘線関連資料、羽後交通バス関連資料、

- 秋田市電関連資料、秋田中央交通線写真、模型
- 4. あきた鉄道の魅力  
由利高原鉄道YR-1500形ディーゼルカー運転台、JR東日本秋田支社借用資料、由利高原鉄道借用資料、秋田内陸縦貫鉄道借用資料、JR貨物東北支社借用資料、秋田臨海鉄道借用資料、写真、国鉄記念品、実物資料、ポスター、切符、チラシ
- 5. 鉄道模型（前期のみ）  
鉄道友の会秋田支部による一周20メートルのNゲージ・モジュールレイアウトの運転
- 6. ふるさとの駅舎（後期のみ）  
昭和60年頃を中心とする県内すべての駅舎の写真

＜付帯事業＞

- 1. Nゲージ鉄道模型大運転会（7月13～15日）
- 2. トークセッション「もっと知ろう！地域でがんばる秋田の地方鉄道」  
会場：秋田県生涯学習センター（7月27日）
- 3. JR貨物ミニ鉄道運転会（8月17・18日）
- 4. 秋田臨海鉄道ディーゼル機関車体験乗車会（8月18日）
- 5. 人力トロッコ体験運転会（9月14・15日）
- 6. HOゲージ鉄道模型運転会（9月21～23日）
- 7. Nゲージ鉄道模型自動運転会（9月28・29日）

#### <連携事業>

同時期に鉄道資料の展示を開催した美郷町学友館、大仙市くらしの歴史館、雄物川郷土資料館、秋田県立図書館、仁別森林博物館、阿仁異人館・伝承館、内陸線資料館と連携し、本館以外に上記2館を訪れてチラシにスタンプを押し、3館目でプレゼントを渡すスタンプラリーを実施した。



担当：畑中 康博（歴史部門）

#### ◇企画展「わくわく科学展」平成25年11月10日（日）～平成26年1月13日（月）

##### <展示概要>

多くの方々に科学のおもしろさを感じていただくため、磁石や電気など主に小中学校の理科（物理関係）の内容から35種類の実験のほか宇宙に関するトピックスや理科実験の道具類を紹介した。小中学生だけでなく幼児から年配の方々まで来館された。実験中心の展示のため、解説員以外に展示担当職員や展示サポーターが2名常駐し実験方法等を説明した。観覧されたりホームページで情報を得られた小学校の先生方から出前展示を依頼され、企画展終了後3校で実施した。



##### <展示構成と主な展示資料>

1. 物の重さ
  - ・てこの原理実験 竿ばかり
2. 物の運動
  - ・テーブルクロス引き 金属球コースター
3. 磁石
  - ・空中で回るコマ
4. 電気
  - ・自転車で発電 静電気であそぼう
5. 空気・大気圧
  - ・空気の重さ ヘロンの噴水
6. 光
  - ・光の3原色と影 光の反射・屈折
7. 再結晶
  - ・食塩の結晶
8. 宇宙
  - ・30億分の1の太陽
9. 理科室の実験道具
  - ・駒込ピペット アルコールランプ

担当：大森 浩（地質部門）

#### ◇企画展「秋田のくすり今昔物語」平成26年2月1日（土）～4月6日（日）

##### <展示概要>

人類が誕生してから今日まで、死や病との戦いは続いている。人びとは訪れる病苦をはじめとする災禍から逃れるために祈禱を行ったり、様々な動植物を薬として活用したりするなど、多くの経験の中から健康維持のための英知を築いてきた。その多くは各地域の環境や生活と密接に関わり、人びとを救う手段として役立っていたと

考えられる。

本企画展では、医療の歴史をたどりながら秋田県の先人が頼りにしてきた薬に焦点を当てて、過去の健康への考え方を探るとともに、過去からの英知が現代医薬に活かされていることについても紹介した。

歴史・民俗・生物・考古と各部門の協力を得て、薬に関する幅広い物語を展開した。

<展示構成と主な展示資料>

1. くすりの広がり  
武士の服薬事例、秋田藩の薬園、角館の武家とくすり、村とくすり、マタギとくすり、カップのくすり、配置薬、唐松神社のくすり、古代のいのり、まじないでなおす
2. 町のくすりやさん  
舛屋薬局(秋田市)、龍角散と藤井薬局(大仙市)、村田薬局(横手市増田)
3. 自然のめぐみ  
県内の薬用植物の乾燥見本 約40点
4. 体験コーナー くすりの広場  
薬研を使おう、行商の荷物、秤ではかる、年中行事の薬(お屠蘇)、体とくすり、七味唐辛子、染色と葉草

<付帯事業>

1. 特別講演会  
日時 3月1日(土) 午後2時30分 ~ 4時  
講師 株式会社龍角散代表取締役社長  
公益社団法人東京生薬協会会長 藤井隆太氏  
演題 現代にいきる伝承薬~龍角散
2. キッズファーマシーin博物館  
~子どものための薬剤師体験会  
日時 3月23日(日) 午前10時 ~ 午後3時

場所 2階ロビー

協力 一般社団法人秋田県薬剤師会

3. 講話「お薬の話」&お薬相談

日時 3月23日(日) 午前10時 ~ 11時  
午後1時30分 ~ 2時30分

場所 学習室

協力 一般社団法人秋田県薬剤師会

4. ギャラリートーク 2月6日、2月8日、2月11日  
2月19日、3月8日

5. 紙芝居「かっぱのおんがえし」

~かっぱから伝えられた薬にまつわる昔話

場所 わくわくたんけん室 期間中3回実施

場所 企画展示室 期間中10回実施



担当：浅利絵里子（民俗部門）

◇菅江真澄資料センター 企画コーナー展

〔第61回企画コーナー展〕真澄片手に男鹿半島へ

平成25年7月6日(土)~8月25日(日)

男鹿半島は、秋田県内の身近な観光地として、長らく県民に親しまれてきた。「観光」という文言は使わないまでも、男鹿半島には江戸時代の文人墨客が訪れ、多くの詩文を残している。特に、西海岸の舟での遊覧は、「島めぐり」として称揚されていた。菅江真澄も文化7年(1810)の一年をかけた一連の旅をはじめとして、何度か男鹿半島に足を踏み入れている。本展では、真澄の記録を道案内とした狩野徳蔵(明治16年)と柳田国男(昭和2年)の旅を紹介した上で、真澄の著作である男鹿五風に見られる特色ある記述、さらには、文人墨客の旅のうち、真澄が著作の中で触れているものについて紹介した。

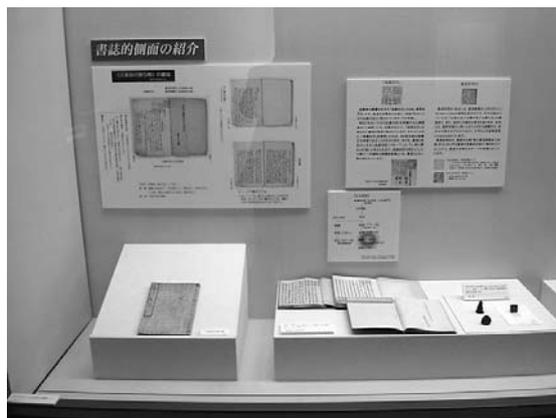
〔第62回企画コーナー展〕真澄と俳諧

平成25年10月12日(土)~12月1日(日)

菅江真澄遊覧記からは、真澄が各地の肝煎、商人、藩士、寺社の僧や神官などと交流しながら旅を続けたことを読み取ることができる。これらの人々の多くには文芸の素養があり、歌や俳諧などを嗜んでいた。真澄の旅は、これら各地の文人たちのつながりの中で展開したと考えらる。真澄は「うた人」であるが、旅の交流の中では句も詠じた。『菅江真澄全集』からは、五十余りの句を拾い出すことができる。本展では、真澄が詠じた句を詳細に見ていくとともに、俳諧に視点を置きながら、文人たちとの交流や真澄の関心事などを取り上げた。

〔第63回企画コーナー展〕随筆《久保田の落ち穂》の世界  
平成26年2月8日（土）～3月23日（日）

随筆《久保田の落ち穂》は、真澄が装本したままに残されている数少ない随筆の一つである。真澄は序文で、それまで書きためていた文章の中から、あらためて久保田領（秋田藩領）にかかわりのあるものを集めたと語っている。全部で66項目の本書には、当時の秋田の人びとの暮らしぶりや文化的環境といったものを垣間見ることができる絶好の材料がいくつも盛り込まれている。本展では、《久保田の落ち穂》の書誌的な側面を紹介した後、個々の項目の要約や関係する資料を紹介した。



担当：松山 修（菅江真澄資料センター）

#### ◇秋田の先覚記念室 企画コーナー展

「飛行詩人・佐藤章～秋田初の民間飛行士～」

平成25年9月14日（土）～11月10日（日）

##### ＜展示概要＞

美郷町に生まれた佐藤章（明治27年～大正10年）は、秋田県出身者で初めて民間飛行士として活躍した人物である。大正8年の第1回郵便飛行大会に優勝するなど、黎明期の日本航空界で優れた業績を残しながらも、若くして悲劇の墜落死をむかえた。その短くも起伏に富んだ生涯を当時の遺品資料を交えて紹介した。

##### ＜展示構成＞

1. 生い立ち
2. テイク・オフ
3. 民間飛行士の雄に
4. 空の開拓者たち
5. 郷里に錦を
6. 悲劇のあとに

なお、展示資料のうちヘルメット・賞牌・賞状等9点は、日本航空協会創立100周年記念展示「帝国飛行協会と航空スポーツ」において、平成25年12月17日（火）～平成26年1月19日（日）の期間、国立科学博物館地球館2階に展示された。



担当：今川 拓（秋田の先覚記念室）

#### ◇可変展示

人文展示室 展示替えコーナー

- ・「旧石器時代の石槍」

4月16日（火）～7月16日（火）

平成24年度の部門研究成果である旧石器時代のナイフ形石器の変遷と機能についての成果を報告・展示した。

担当：吉川耕太郎（考古部門）

- ・「さまざまなDOGU」

7月25日（木）～1月19日（日）

当館で所蔵している縄文時代中期から晩期までの土偶を時期順に展示し、その形態とデザインの多様性、共通性を解説するとともに近代の模造品もあわせて紹介し

た。

担当：吉川耕太郎（考古部門）

- ・「秋田で新発見！縄文人も愛した黒曜石の新原産地」

1月21日（火）～5月11日（日）

平成25年度の成果である田沢湖産黒曜石の調査と蛍光X線分析・年代測定分析の成果についての速報展示を行った。

担当：吉川耕太郎（考古部門）

・「記録に残る秋田の地震」

5月21日(火)～11月17日(日)

古文書、絵図、写真などの記録により、平安時代以降の秋田の主な地震をふりかえった。

担当：新堀道生（歴史部門）

・「男泣き家電ランド」

第1期「サンタさんの記憶－家庭用テレビゲーム機の世界－」

展示期間 12月3日（火）～1月26日（日）

展示品 ファミリーコンピュータ、スーパーファミコンなど80～90年代の家庭用テレビゲーム機を展示した。

第2期「録音・録画に燃えた青春」

展示期間 1月28日（火）～3月16日（日）

展示品 ラジカセ、U-MATIC、ベータマックスなどを展示した。

第3期「最新式だった家電」

展示期間 3月18日（火）～4月20日（日）

展示品 オープンリール、携帯用テレビ、ワープロ専用機など、一世を風靡した家電製品を展示した。

この展示は、平成26年度も、第4期「男泣き番外地俺たちのスチールカメラ」を展示する予定である。

展示予定 4月22日（火）～5月11日（日）

展示品 各種スチールカメラ

担当：畑中 康博（歴史部門）

自然展示室 展示替えコーナー

・「ほ乳類のなかまたち」

3月29日（金）～9月29日（金）

横隔膜、胎盤・胎生、異歯性、7個の頸椎骨、1個の下顎骨などのほ乳類の特徴を説明するとともに、それとは異なる特徴を持つほ乳類を展示し、進化と適応や種の多様性について紹介した。

卵を産むカモノハシ 育児袋のあるコアラ

皮膚が鱗に変化したセンザンコウ

手足がひれに変化したワモンアザラシ

空を飛ぶキクガシラコウモリ

最も水中生活に適応したクジラ（ハクジラの歯、ヒゲクジラのヒゲ）

担当：佐藤 久男（生物部門）

・「スギの魅力」

10月1日(火)～3月30日(日)

本県の県木であるスギについて、生物としての魅力はもとより、生活のさまざまなところに利活用されている

杉材について紹介した。本館所蔵の樹幹資料、祝い樽、能代市二ツ井町田代の仁鮎水沢自然保護林における天然秋田杉の生育状況の写真、借用資料である走査型電子顕微鏡写真や天然秋田杉円板(部分)等も展示した。

担当：永井 元（生物部門）

ふるさとまつり広場

「天神信仰」 4月9日(火)～6月2日(日)

「七夕絵どうろう」 6月4日(火)～7月3日(水)

「あきた大鉄道展」 関連写真展

7月6日(火)～10月20日(日)

「東北のこけし」 10月29日(火)～2月2日(日)

「雛人形」 2月4日(火)～4月6日(日)

担当：丸谷仁美・浅利絵里子(民俗部門)

▶ 展示室の保守管理状況

展示室の温湿度の測定、灯具や映像・音響機器、パソコンなどの点検を毎日実施しており、不具合がある場合はその都度対応した。また展示室の清掃を定期的を実施した。

25年度は職員と解説員から不具合のある設備や什器の洗い出しをしてもらい、報告書を作成してもらった。それを元に、現状で対応が可能なものは必要な措置をとり、規模の大きな改修が必要なものについては、優先順位を検討し、今後の修繕の参考資料にしている。

また節電対策の一環で、25年度も館内の一部の照明をLEDのものと交換した。

▶ 解説案内サービス業務

来館者の方々に、親しみある解説活動を実施するために、次の5点の重点項目を設定して解説業務を行った。

1. 来館者に応じたわかりやすい解説の創意工夫
2. より多くの来館者への積極的な解説活動の実施
3. 展示内容の正確な理解と的確な解説の実施
4. 誠意ある応対の実施
5. 積極的な広報活動の推進と的確で迅速な情報提供

日常業務については、研修、勤務割作成、月例会運営、情報資料収集、団体関係、Q&Aを分担した。また、県内類似施設への研修も行い、解説業務の研鑽を積んだ。

## デジタルアーカイブ資料

平成24年度に実施したアーカイビング事業で撮影した資料の画像を、同事業で作成したスマートフォンとタブレット端末用専用アプリへの資料の追加登録と、秋田県立図書館が実施しているアーカイブシステムへの画像の追加登録を行った。

専用アプリは60点ほどの資料を新規に追加し、国際課の協力より解説文などを翻訳し英語も掲載している。次年度以降も順次資料を増やしていく予定である。

図書館のアーカイブシステムの方は、アーカイビング事業で撮影した資料画像はすべて登録を行った。次年度以降は当館の過去の発行物や音声あるいは動画などの資料を登録を行っていく予定である。

## 分館（旧奈良家住宅）

主屋（重要文化財）を平成25年4月2日（火）から平成26年3月30日（日）まで公開した。また附属屋（登録有形文化財）も外観のみ同期間公開した。附属屋については内部公開の希望に応えるために、平成25年8月4日（日）と9月1日（日）に公開し、担当学芸職員が解説を行った。なお、9月1日は秋田市金足黒川にある三浦館（重要文化財）の見学もあわせて行った。

## 4 教育普及活動

博物館教室は20教室を開講し、参加者は延べ1,260人であった。名誉館長館話は前期6回、後期6回の計12回実施し、参加者は572人であった。新しい趣向の教室や複数回開催の教室を開講したこともあり、多くの参加者を得ることができた。

イベントとして3月に進駐軍のピアノを使ったミュージアムコンサートを開催し、140人ほどの来館者がコンサートを楽しんだ。

ミュージアムトークは、常設展29回、特別展4回、企画展20回、可変展示36回実施し、学芸職員の解説は来館者に好評であった。喫茶室を会場に学芸職員の調査研究

内容を紹介するミュージアムトーク・カフェを5回実施し、120名ほどが参加した。

県内博物館等類似施設との連携では、秋田県博物館等連絡協議会加盟館に対してのくん蒸サービスや秋田市文化施設連絡会議(みるかネット)の事業であるギャラリートークセッション等へ参加した。埋蔵文化財センターとの連携事業を2回開催した。

教職10年経験者研修、博物館実務実習、企業行政研修に対応するとともに、出前授業、県立大学や総合教育センターでの講義等の講師を務めた。

## 普及行事

### ◇博物館教室

25年度は20の博物館教室が計画され、すべての教室が予定通り実施された。のべの参加人数は1,260人であった。長年実施している教室がある一方で、複数部門がかかわる新趣向の教室も開催されて好評であった。教室終了時にはアンケートを実施し、評価や感想などから、担当者が内容の見直しに役立てるようにした。連続開催の教室が多いこと、土日で開催日が集中する傾向にあることが特徴である。教材費等については受講者負担の教室が増えてきた。

	教室名	参加人数 (のべ)
1	楽しい絞り染め-研究コース-	215
2	楽しい絞り染め-中級コース-	192
3	歴史学・考古学入門講座	69
4	化石と地層の観察会	27
5	「真澄に学ぶ教室」 講読会	246
6	昆虫教室	46
7	「真澄に学ぶ教室」 講演会 I	50
8	考古学教室	63
9	魚の体内を調べよう	12
10	竹細工製作教室	8
11	旧奈良家住宅見学会	20
12	磯を楽しもう	2
13	「真澄に学ぶ教室」 講演会 II	73
14	初めての古文書解説	75
15	アイの生葉で染める	19
16	石器づくり体験	18
17	縄文土器を作ろう	11
18	生物統計学入門	4
19	古文書大講堂	36
20	ゼロからはじめるワラ仕事	74
	合計	1260

#### ◇名誉館長館話

前期6回を「歴史と文化を語る」、後期6回を「先覚・真澄」と銘打った内容にして、25年度が3年目であり定着した感がある。前期は、長年の研究生活からの豊富な話題と季節の良さもあり多人数の参加を得た。先覚と真澄の話題は、特定の広報などに力を入れていきたい。

	参加人数
名誉館長館話（前期） －歴史と文化を語る－	418
名誉館長館話（後期） －先覚・真澄－	154
合計	572

#### ◇その他の行事

- ・ミュージアムトーク 全89回 参加者数907名
- ・ミュージアムトークカフェ 全5回 参加者数116名
- ・ロビーDeトーク 3月22日(土) 参加者数 35名
- ・早川泰子のほっとJAZZたいむvol.3  
3月22日(土) 参加者数140名

### ▶ 博物館における研修・実習

#### ◇博物館実務実習

8月21日（水）から8月27日（火）の6日間（休館日の8月26日を除く）で、7大学8名の実習生を対象に実施した。実習生の内訳は、駒澤大学1名、城西国際大学1名、専修大学1名、弘前大学2名、宇都宮大学1名、大東文化大学1名、筑波大学1名。

内容としては、調書の取り方や梱包などの資料の取り扱いに関することや、展示の解説系の製作と模擬解説などのほか、博物館評価のシュミレーションとディスカッションなどを行い、博物館の学芸員の実際の作業を体験してもらった。

#### ◇企業・行政研修

秋田大学からの依頼で5名の学生を対象に、8月7日（水）から8月11日（日）の5日間の研修を行った。

この研修の目的は実務を経験させ、将来の職業選択に向けて様々な職業についての理解を深めさせることを目的としている。そのため、博物館の機能として重要な資料の保存と教育の分野についての仕事を体験して貰った。内容は民俗資料の整理と、研修期間に行われた博物館教室の補助ならびに展示室における来館者への補助を行ってもらった。

### ▶ 他施設・他団体との連携

#### ◇秋田県博物館等連絡協議会（略称：秋博協）

- ・役員会、総会、研修会 6月5日（水）  
会場：秋田キャッスルホテル（秋田市）  
総会は26館38名参加  
研修会1：講演「今、美術館の中から」  
講師：小笠原光氏（秋田県立美術館館長）  
研修会2：新秋田県立美術館見学
- ・実務担当者研修会 2月27日（木）  
会場：秋田県立博物館学習室  
14加盟館21名参加  
講演：災害時における水損資料レスキューについて  
講師：米村祥央氏  
（東北芸術工科大学 芸術学部准教授）
- ・燻蒸サービス  
9月2日（月）～9月9日（月）  
9施設が利用
- ・秋博協ホームページ「あきた文化的施設案内処」  
加盟各施設が掲載内容を随時更新した。
- ・会報の発行『秋博協だより』第48号

#### ◇ボランティア活動

博物館ボランティア「アイリスの会」は、活動内容によってA・B・C・笑の4つのチームに分かれ総勢34名で活動している。

Aチームは、来館者のサポートを中心とした活動を行っており、おはなし会の実施、講演会や博物館教室の受付等の博物館事業へのサポート活動を行っている。

Bチームは、わくわくたんけん室での補助的業務を中心に活動し、ローテーションによる来館者への補助的業務とそれとともなう研修活動を定期的に実施している。

Cチームは、図書資料の整理（考古部門も含む）活動、ボランティア広報誌の作成・掲示、博物館事業の広報活動、研修の企画・運営を行っている。

笑チームは、定期的な学習会を実施してわら細工技術の習得につとめ、しめ縄作り教室を年末に開催している。

その他には、山吹の生花での分館・旧奈良家の飾り付けを行い「軒の山吹」の風景を再現した。

◇博物館友の会

- ・役員会 4月13日(土) 午前10時30分～12時
- ・総会 4月13日(土) 午後1時30分～3時
- ・研修行事

(1)「秋田学」を深める研修

- ①秋田の文化と自然を学ぶⅠ 5月18日(土)  
にかほ市象潟の自然と歴史を学ぶ 19名参加
- ②秋田の文化と自然を学ぶⅡ 6月9日(日)  
大館市の自然と歴史を学ぶ 21名参加
- ③秋田の文化と自然を学ぶⅢ 9月24日(火)  
菅江真澄の大町散歩 16名参加

- ④秋田の文化と自然を学ぶⅣ 10月12日(土)  
世界自然遺産白神の自然を学ぶ 16名参加

(2) 県外博物館の研修

- 真鶴半島および小田原の美術館・博物館探訪  
1月31日(金)～2月2日(日) 10名参加
- ・植物標本ボランティア 毎週火曜日活動
- ・友の会だより 第38号、第39号の発行

5 広報出版活動

展示のポスターやチラシは、展示内容に合わせて配布計画を検討して配布した。特別展については、県内小学校児童に対して配布した。秋田市内のコンビニエンスストアに対しては、県の計画に沿って配布した。

マスコミ・地元情報誌等に対するプレスリリースや情報提供は、展示・イベントにあわせて積極的に実施した。特に、特別展「あきた大鉄道展」については、従来の広報計画に加え後援団体、マスコミに対する広報活動を館全体で取り組んだ。

ホームページはトップページの体裁を変更し、企画展、特別展のバナーを入れるなど展示を前面に出す構成とした。また、フェイスブックとのリンクも設定し、展示やイベント、館職員の活動の様子等について掲載した。今後は、利用者目線に立った体裁とするなど、工夫と改善を行う必要がある。

印刷出版

◇展示ポスター

特別展「あきた大鉄道展」	B 2判	1,500部
企画展「霊峰鳥海に祈る人びと」	B 2判	1,350部
企画展「わくわく科学展」	B 2判	1,200部
企画展「秋田のくすり今昔物語」	B 2判	1,200部

◇展示広報チラシ

特別展「あきた大鉄道展」	A 4判	70,000部
企画展「霊峰鳥海に祈る人びと」	A 4判	20,000部
企画展「わくわく科学展」	A 4判	15,000部
企画展「秋田のくすり今昔物語」	A 4判	21,000部

◇展示解説資料

特別展「あきた大鉄道展」	B 6判22頁	7,000部
秋田の先覚記念室企画コーナー展 「飛行詩人・佐藤章 ～秋田初の民間飛行士～」	A 4判 8頁	1,000部

◇広報誌

博物館ニュース No.157・158	A 4判 8頁	2,300部
広報紙「真澄」 No.31	A 4判 8頁	1,500部

◇報告書等

年報 平成25年度	A 4判44頁	1,000部
秋田県立博物館研究報告 第39号	A 4判30頁	600部
真澄研究 18号	A 5判102頁	500部

## ▶ 広報活動

特別展、企画展の広報は内容に合わせて臨機巧に実施した。特別展「あきた大鉄道展」のチラシ配布は、通常の発送先に加えて全県小学校の児童全員に配布したほか、共催・後援など関係各機関等の協力を得て、効果的な広報活動を実施した。企画展「わくわく科学展」では近隣小中学校、企画展「秋田のくすり今昔物語」では秋田県薬剤師会加盟薬局にチラシ配布を行うなどした。

企画展のポスター・チラシは、秋田市内のコンビニエンスストアに配布した。

記者クラブ、県・博物館・秋博協のサイト等に対して情報を提供した。

プレスリリースを例年より数多く実施したため、報道各社からの問い合わせ・取材件数も増加した。

地元情報誌等からの取材に対しては適宜、情報を提供し企画展等に関する情報を掲載していただいた。

県のデータ放送、テレビ・ラジオ放送等に対して企画展等の情報提供を行った。

## ▶ インターネット利用

### ◇ホームページ

25年度は、トップページの構成を大幅に変更し、企画展・特別展や、各展示室の展示替えコーナーなどを強調する形にした。また、展示やイベントの情報を、よりきめ細かく提供するよう心がけた。「あきた大鉄道展」の人気もあり、年間のアクセス数（トップページ）は50,498と、昨年比約1.6倍になった。

### ◇フェイスブックページ

5月末日から、フェイスブックページの運用を開始した。

### ◇電子メール

問合せや、博物館教室・イベント等の申込の手段として定着している。イベント等参加申込については、取りまとめの担当と連絡を密にして、定員間際にトラブルが生じないように配慮した。

## 6 学習振興活動

学習振興班では、体験展示室「わくわくたんけん室」の運営と教育普及の一部であるセカンドスクールの利用の対応にくわえ、25年度から教員長期社会体験研修も行っている。

わくわくたんけん室は、博物館の展示と連動して郷土の歴史や取り巻く自然、培われてきた文化などをアイテム化し、多くは壁面の棚の「宝箱」とよんでいる箱に入れてある。中に入れてあるマニュアルに従い、楽しく自主活動をしてもらうことを目指している。25年度は、学芸全員当番制の3年目となり、スムーズに運営すること

ができた。季節アイテムの開始や終了については、来館者数や材料数を考慮し臨機巧に対応した。

セカンドスクールの利用は、学校以外の教育施設において教師が当該施設や人材などを活用し、授業時数にカウントするものである。受け入れは、利用方法の相談、時間調整等を行い、支障なく進められた。25年度は、学芸職員が学校に向いての出前授業が増加したが全体では昨年より利用校、人数共に減少した。また、利用促進目的で「教師のための博物館の日」を学校が夏季休業中の8月に開催した。

## ▶ わくわくたんけん室の運営

土日の利用や学校長期休業中の利用に大きな変化はなかった。平日利用は、学校団体利用数が若干減少した。

季節イベントとして、25年度2回の「ミッションをクリアしてお宝をゲットせよ」を実施した。このイベントは「各展示室の展示資料・解説パネルなどを読み、5つの問題（ミッション）を解くと手作りのお宝を得る」というものである。25年度の1回目は、展示替え期間中の開催であったため、参加者数が大幅に減った。しかし、

アンケート結果を見ると「イベントに参加するために来館」との回答が多かった。2回目は「わくわく科学展」の開催期間中での開催で、昨年とほぼ同じ参加者数であった。25年度より「展示を見ただけでわかる問題」から「展示解説を読まなければわからない問題」とし、より展示に関心を持ってもらえるようにした。小学生を中心とした参加者層に大きな変化はないが、以前よりも難しい問題という印象を持つ方が少し増えた。

学校の夏期休業期間には、「貝の標本作り」や「貝のマグネット飾り作り」を行った。

年末には「正月飾り作り」を行なった。25年度は「ミニしめ縄飾り」82件・「ミニ門松」137件であり、年々増加している。「ミニ門松が作りたくて来館した」という声もある。年始により石膏の干支の置物として2種の「馬の置物作り」を行った。

宝箱には、これまでは「タイトル」表示だけで、宝箱の中身に関する表示が一切なかった。利用者自身がより

一層宝箱に興味を覚え、利用者自らを宝箱を開き、利用促進につながるように、対象・難易度・所要時間・中身の写真という最低限の情報を表示するための準備作業を行なった。

また、歴史部門からの依頼により、YR-1500をわくわくたんけん室に設置した。

### 学校の博物館利用の援助

学校団体の利用状況を24年度と比較すると、幼稚園・保育所、高等学校の利用は増加したが、小学校、中学校、特別支援学校の利用が減少しており、全体として校数、人数とも減少した。

幼稚園・保育所は遠足での雨天時のみの利用が多いため、利用数が天候により大きく左右される。51校の申し込みに対して28校が晴天のためのキャンセルであり、晴雨にかかわらず利用していただけるよう、引き続き働きかけていきたい。小学校の利用内容は、分館見学を含む3年生の「古い道具と昔の暮らし」、6年生の人文展示室を利用した「日本の歴史」や自然展示室を利用した「大地のつくりと変化」などの学習が多く、出前授業も実施した。中学校は総合学習での利用が8割超であり、宿泊体験学習のコースとして当館の利用を取り入れている学校があった。また、北海道から修学旅行の一環で立ち寄るケースが2件あった。特別支援学校の利用では、個々の生徒に応じた対応を行うことができた。高等学校

による利用の半分はインターンシップが占め、他に理科の授業での自然展示室見学があった。

利用の受け入れにあたっては、目的や人数などを確認の上、必要に応じてこちらから日程や見学内容を提案し、より有意義なものとなるよう心がけた。また、校種や見学内容に応じたオリエンテーションを実施することで混乱なく見学していただくことができた。

	学校数	利用人数	授業カウント内訳				その他
			教科	道徳	総合的な学習	特別活動	
幼稚園・保育所	23	1,184	0	0	0	0	23
小学校	89	4,727	93	0	8	8	0
中学校	28	743	8	0	23	2	0
特別支援学校	7	48	7	0	1	1	0
高等学校	18	567	6	0	10	2	0
合計	165	7,269	114	0	42	13	23

### 博物館における研修・実習

#### ◇職業体験・インターンシップ

中学生の職業体験は5校11名、高校生のインターンシップは9校19名を受け入れた。

#### <職場体験>

合川中学校（2名）	5月30日（木）
男鹿南中学校（1名）	7月2日（火）～3日（水）
秋田北中学校（1名）	10月17日（木）～18日（金）
天王南中学校（4名）	10月22日（火）～25日（金）
秋田大学教育文化学部附属中学校（3名）	12月3日（火）～5日（木）

#### <インターンシップ>

能代高校（2名）	7月24日（水）～26日（金）
秋田明德館高校（1名）	7月26日（金）～28日（日）
金足農業高校（2名）	8月1日（木）～3日（土）
本荘高校（2名）	8月4日（日）～6日（火）
秋田和洋女子高校（2名）	8月16日（金）～18日（日）
五城目高校（2名）	8月28日（水）～30日（金）
男鹿海洋高校（5名）	9月10日（火）～12日（木）
秋田商業高校（1名）	10月1日（火）～3日（木）
男鹿工業高校（2名）	10月29日（火）～31日（木）

◇教員長期社会体験研修

教育機関との連携活動の一環として、長期社会体験研修を1名（小学校教諭）受け入れた。当館における長期社会体験研修の目的は、博物館での様々な業務を体験することで、豊かな人間性と広い視野に立った教育力や実践指導力の育成を図ることにある。

25年度は、下記の研究に加え、わくわくたんけん室での日常業務・わくわく科学展の展示解説業務を行った。また、研究成果を第28回秋田県教育研究発表会（総合教育センター主催）で発表した。発表までに3回の中間発表会を行い、学芸職員の意見等を参考にしながら、研究を進めた。

○山本 等（大潟小学校教諭）

研究テーマ：「小学校総合学習の時間を効果的に進めるための教材開発～博物館資料を活用して～」

研究の概要：菅江真澄の図絵・俯瞰撮影写真・立体地図を組み合わせた教材製作、それを活用した総合学習の単元設定と授業案作成、他の授業での教材活用法など。

7 館外活動

◇執筆（著書・論文など、「研究報告第39号」は除く）

新野 直吉	「シリーズ時代を語る」 （さきがけ新書） 「戦後の国史学科と周辺」 （東北大学「国史談話会雑誌」54号）
松山 修	「内田武志の菅江真澄研究」 （敬文舎「MY舎人倶楽部」4号） 「菅江真澄の旅(19)《けふのせばのの》」 （「秋田手仕事たより」第78号）
新堀 道生	「秋田藩の農村と給人」 （NHK学園生涯学習講座「古文書通信」）
丸谷 仁美	「万体仏の現状」 （秋田県文化財収録作成事業「真山の万体仏」）
梅津 一史	「採集例の少ないカミキリムシの記録」 （秋田自然史研究 64） 「秋田県内で採集したスカシバガ科蛾類」 （秋田自然史研究 65）
吉川耕太郎	「北海道・東北地方」 （旧石器時代の年代と広域編年対比） 「東北地方の後期旧石器時代前半期石器群の編年」 （ひらけ！旧石器人の道具箱）
浅利絵里子	「東北 男鹿」 （季刊考古学第126号） 「秋田のくすり今昔物語」 （秋葉PRESS 2014.3）

◇講演、講座など

新野 直吉	「『毛々左田』の歴史的地位」 （西部地域住民自治協議会） 「齋藤父子（字一郎・憲三）について」 （にかほ市） 「倒叙東北史の本性」 （東北文化学園大学） 大会特別講演「研究室は赤煉瓦館」 （東北大学国史談話会）
-------	--

	「後三年合戦の歴史的環境とその背景」 （美郷町） 「秋田で観る『教育』の史話」 （聖霊学園） 「秋田北辺の鄙に非ず」 （秋田県公文書館） 「雄族清原氏を考える」 （金沢諏訪の会） 「真澄の見た久保田城下町」（3回） （秋田市中央公民館事業） 「菅江真澄、旅日記の読み方～津軽での記録」 （NPO白神山地を守る会〈青森県〉） 「菅江真澄と歩く美郷町」 （美郷町公民館講座） 「菅江真澄の旅～県北の旅」 （秋田市みるかネット事業） 「男鹿島めぐり－真澄と旅人たち」 （県生涯学習センター講座） 「秋田県の姿」 （秋田県自治研修所） 「県立博物館資料から学ぶ郷土の歴史」 （秋田県総合教育センター） 「秋田の歩き方入門」 （秋田県立大学） 「秋田駅前の変遷」 （久保田城址歴史案内ボランティアの会） 「盛曲線敷設運動と地域社会」 （嶽友館 郷土史おもしろ講座） 「幕末の秋田の歴史」 （県年金受給者協会秋田中央第一支部） 「花輪ばやしフォーラム」 （花輪ばやし祭典委員会） 「北海道・東北」 （日本旧石器学会第11回講演・研究発表）
松山 修	
新堀 道生	
畑中 康博	
丸谷 仁美	
吉川耕太郎	

船木 信一	「旧石器人類の進化と芸術性の獲得」 (あきたアートプロジェクト聖霊の学校) 郷土学ベーシック講座 (御所野学院高校)
-------	---

◇委員委嘱

新野 直吉	史跡払田柵跡調査指導研究会委員(委員長) 大潟村村史編纂委員(監修) 秋田城跡整備委員会委員(委員長) 史跡秋田城跡保存管理計画策定指導委員会 委員(会長) 後三年合戦(役)等関連遺跡整備指導委員 会特別委員 秋田大学附属中学校評議員 由利本荘市誌編集委員(監修)
丸谷 仁美	「真山の万体仏」文化財収録作成調査委員 鹿角市有形民俗文化財調査委員
吉川耕太郎	日本考古学協会全国埋蔵文化財保護対策委 員
船木 信一	大潟村干拓博物館協議委員
佐藤 久男	秋田県環境教育等推進協議会委員
梅津 一史	国土交通省河川水辺の国勢調査アドバイザ ー 秋田県版レッドデータブック改訂検討委員 会委員



資

料

---

# I 収蔵資料の概要

収蔵資料総数 (平成26年4月1日現在)

総集	美術	工芸	歴史	考古	民俗	生物	地質	先覚	真澄	計
3,698	450	13,211	7,784	2,608	9,349	100,281	11,441	3,251	2,174	154,247

文化財指定物件一覧 (館蔵資料)

指定区分	部門	記号番号	物件名	数量	指定年月日	
県	美術	絵画第6号	紙本着色 秋田風俗絵巻	1巻	昭和29. 3. 7	県指定有形文化財 (絵画)
県	工芸	工芸第40号	刀 銘出羽住忠秀刻印	1口	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第34号	鐺 壇溪図	1枚	昭和38. 2. 5	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第53号	短刀 銘天野藤原高真作 元治元年吉日	1口	昭和44. 8. 9	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第63号	魚藻文沈金手箱	1合	昭和53. 2.14	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第62号	鐺 (あやめ図透彫) 銘 出羽秋田住正阿弥二代作 享保十八年三月日	1枚	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第67号	刀 銘羽州住兼廣作 安政四年三月吉日	1口	平成 4. 4.10	県指定有形文化財 (工芸)
県	工芸	工芸第66号	秋田家資料 (刀剣類ほか)	1括	平成11. 3.12	県指定有形文化財 (工芸)
国	考古	考古資料第362号	人面付環状注口土器 秋田県南秋田郡昭和町大久 保字狐森出土	1口	昭和53. 6.15	重要文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第25号	勾玉および玉類 (枯草坂古墳出土)	52点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第26号	鉢形土器 (沢田遺跡出土)	1点	昭和57. 1.12	県指定有形文化財 (考古資料)
県	考古	考古資料第27号	穀丁遺跡出土品 (青磁碗他)	1括	昭和58. 2.12	県指定有形文化財 (考古資料)
国	考古	考古資料第435号	磨製石斧 秋田県雄勝郡東成瀬村田子 内上掬出土	4箇	昭和63. 6. 6	重要文化財 (考古資料)
県	歴史	歴史資料第6号	久保田城下絵図	1幅	平成 1. 3.17	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	歴史資料第7号	紙本金地着色 男鹿図屏風	六曲 一双	平成 3. 3.19	県指定有形文化財 (歴史資料)
県	歴史	書跡典籍第10号	平田篤胤竹画讃	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第11号	平田篤胤書簡	1巻	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
県	歴史	書跡典籍第12号	平田篤胤和魂漢才	1幅	昭和39.11.17	県指定有形文化財 (書跡・典籍)
国	民俗	建造物第1594号	旧奈良家住宅	1棟	昭和40. 5.29	重要文化財 (建造物)
国	民俗	第5-130号	旧奈良家住宅味噌蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-131号	旧奈良家住宅文庫蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-132号	旧奈良家住宅座敷蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-133号	旧奈良家住宅新住居	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-134号	旧奈良家住宅南米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-135号	旧奈良家住宅北米蔵	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
国	民俗	第5-136号	旧奈良家住宅北野小休所	1棟	平成18. 3. 2	登録有形文化財
県	民俗	民俗資料第12号	県内木造船資料	13点	平成 4. 4.10	県指定有形民俗文化財
県	民俗	民俗資料第13号	秋田柚子造材之画	1点	平成 5. 4. 9	県指定有形民俗文化財
国	生物	5-3-0001	田沢湖のクニマス (標本)	1点	平成20. 7.28	登録記念物

## Ⅱ 歴代館長、特別展等一覧

### ▶ 名誉館長

新野直吉	平成12年4月～
------	----------

### ▶ 歴代館長

佐藤文夫	昭和50年5月～昭和52年3月
加賀谷辰雄	昭和52年4月～昭和53年3月
奈良修介	昭和53年4月～昭和58年3月
畠山芳郎	昭和58年4月～昭和63年12月
斉藤長	昭和64年1月～平成元年3月
佐藤巖	平成元年4月～平成3年8月
橋本顕信	平成3年9月～平成4年3月
近藤貢太郎	平成4年4月～平成7年3月
高橋彰三郎	平成7年4月～平成9年3月
新野直吉	平成9年4月～平成12年3月

富樫泰時	平成12年4月～平成15年3月
佐々田亨三	平成15年4月～平成17年6月
三浦憲一	平成17年6月～平成18年3月
沢井範夫	平成18年4月～平成20年3月
佐々木義幸	平成20年4月～平成21年3月
鈴木幸一	平成21年4月～平成22年3月
荒川恭嗣	平成22年4月～平成23年3月
神馬洋	平成23年4月～平成25年3月
風登森一	平成25年4月～

### ▶ 特別展等一覧

昭和53年1月	地域展	伝説の里鹿角
7月	特別展	(東京国立博物館巡回展) 日本の美
10月	特別展	文化庁所蔵優秀美術作品展
55年1月	地域展	鳥海山麓－山と人－
7月	特別展	日本の時代服飾
56年9月	東北展	東北の仮面
58年1月	地域展	平鹿－水とくらし－
7月	特別展	はにわ
59年5月	東北展	東北の近世大名
60年12月	地域展	能代・山本 －川と山のくらし－
61年7月	特別展	世界の貝
62年6月	東北展	出羽の近世大名
63年5月	特別展	神々のかたち－仮面と神像－
平成元年6月	特別展	日本列島発掘展
11月	地域展	湯沢・雄勝の文物展
2年7月	特別展	日本のやきもの
3年4月	特別展	世界の昆虫
4年7月	特別展	近世美術の華
5年4月	特別展	鳥ってなあに
6年4月	特別展	北方文化のかたち
7年4月	特別展	地球を見つめる小さな眼

平成8年10月	特別展	ラ・ビレット －科学の遊園地－
9年11月	特別展	日本のわざと美
10年4月	特別展	ネアンデルタール人の復活
11年4月	特別展	おもちゃ
12年10月	特別展	(国立博物館美術館巡回展) 信仰と美術
16年9月	特別展	オリエント文化展
10月	北東北三県共同展	描かれた北東北
17年7月	特別展	いきもの図鑑 ～牧野四子吉の世界～
18年9月	特別展	熊野信仰と東北 ～名宝でたどる祈りの歴史～
19年7月	北東北三県共同展	北東北自然史博物館
20年7月	特別展	昆虫の惑星
21年4月	特別展	白岩焼
22年5月	北東北三県共同展	境界に生きた人々
23年7月	特別展	粋なよそおい 雅なよそおい
24年9月	特別展	アンダー×ワンダー！ －北東北の考古学最前線－
25年7月	特別展	あきた大鉄道展

### Ⅲ 秋田県立博物館条例

(昭和50年3月12日公布  
昭和50年5月1日施行  
平成24年4月1日最終改正)

(設置)

第1条 郷土の自然と人文に関する認識を深め、県民の学術及び文化の発展に寄与するため、秋田県立博物館(以下「博物館」という。)を秋田市金足嶋崎字後山52番地に設置する。

(職員)

第2条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(博物館協議会)

第3条 博物館に秋田県立博物館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから、教育委員会が任命する。

- 一 学校教育及び社会教育の関係者
- 二 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- 三 学識経験のある者
- 四 博物館の利用者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(入場料等の徴収)

第4条 博物館本館において特別の展示を行う場合は、同館に入館しようとする者から入館料を徴収する。

2 前項の入館料の額は、別表第1に定める額の範囲内においてその展示の都度知事が定める。

3 地方自治法(昭和22年法律第67号)第238条の4第7項の規定による許可を受けて講堂又は学習室を使用しようとする者から、別表第2に定めるところにより使用料を徴収する。

(入館料等の減免)

第5条 知事は、特別な理由があると認めるときは、入館料又は使用料を減免することができる。

(入館料等の不還付)

第6条 既に徴収した入館料又は使用料は、還付しない。ただし、知事は、講堂又は学習室の使用について、使用者の責に帰することのできない事由により、使用することができなくなったときその他特に必要があると認めるときは、その一部又は全部を還付することができる。

(施行規定)

第7条 この条例の施行に関し必要な事項は、別に定める。

別表第1(第4条関係)

入館料の上限額

区 分	金 額	
	個 人	20人以上の団体
小学校児童及び中学校生徒	200円	1人につき 160円
高等学校生徒並びに高等専門学校及び大学の学生	400円	1人につき 320円
一 般	600円	1人につき 480円

別表第2(第4条関係)

区 分	金 額
講 堂	1 日 11,700円
	半 日 5,850円
学 習 室	1 日 3,500円
	半 日 1,750円

## IV 秋田県教育委員会行政組織規則（抜粋） 教育機関の管理及び運営に関する規則（抜粋）

### ◎ 秋田県教育委員会行政組織規則

第26条 秋田県立博物館（以下「博物館」という。）の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 博物館事業の企画運営に関すること。
- 二 資料の収集、保管及び展示に関すること。
- 三 資料の専門的・技術的な調査研究に関すること。
- 四 資料の解説及び広報活動に関すること。
- 五 秋田県立博物館協議会に関すること。

### ◎ 教育機関の管理及び運営に関する規則

#### 第9章 博物館

##### （開館時間）

第38条 秋田県立博物館（以下この章において「博物館」という。）の開館時間は、次のとおりとする。ただし、博物館の長（以下この章において「館長」という。）は、必要があると認める場合は、当該時間を変更することができる。

期 間	時 間
4月1日から10月31日まで	午前9時30分から午後4時30分まで
11月1日から3月31日まで	午前9時30分から午後4時まで

##### （休館日）

第39条 博物館の休館日は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 一 月曜日（当該日が休日又は8月29日に当たるときは、その翌日）
- 二 年始（1月1日から1月3日まで）
- 三 年末（12月28日から12月31日まで）

##### （使用の許可の申請等）

第40条 講堂又は学習室の使用について地方自治法（昭和22年法律第67号）第238条の4第7項の規定による許可を受けようとする者は、館長の定めるところにより、申請書を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 第11条第2項の規定は、講堂又は学習室の使用の許可について準用する。

## V 入館者に関する資料

### (1) 入館者数内訳

平成24年度

総入館者数 83,755人

有料展示

アンダー×ワンダー！—北東北の考古学最前線—

平成25年度

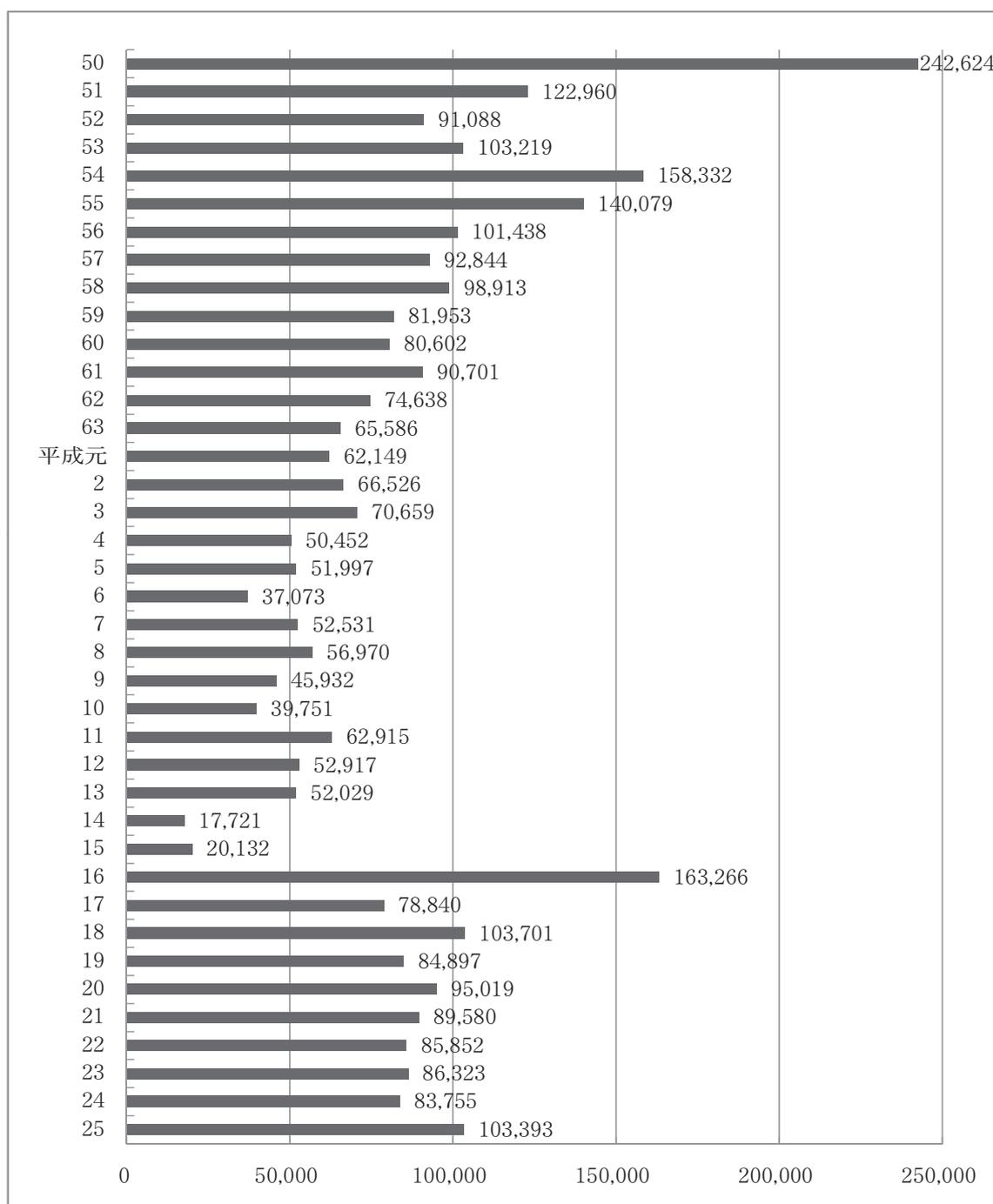
総入館者数 103,393人

有料展示

あきた大鉄道展

### (2) 年度別入館者数の推移

延べ入館者数 3,259,357人（平成25年度末）



※平成14・15年は、リニューアル工事期間中につき、秋田の先覚記念室・菅江真澄資料センター・分館旧奈良家住宅のみ開館

## ～利用案内～

開館時間 4月～10月 午前9時30分～午後4時30分  
11月～3月 午前9時30分～午後4時

休館日 ・月曜日  
(ただし祝日・振替休日と重なる場合は次の平日)  
・年未年始  
(12月28日～1月3日)  
・燻蒸消毒の期間  
平成26年度は9月1日(月)～9月8日(月)

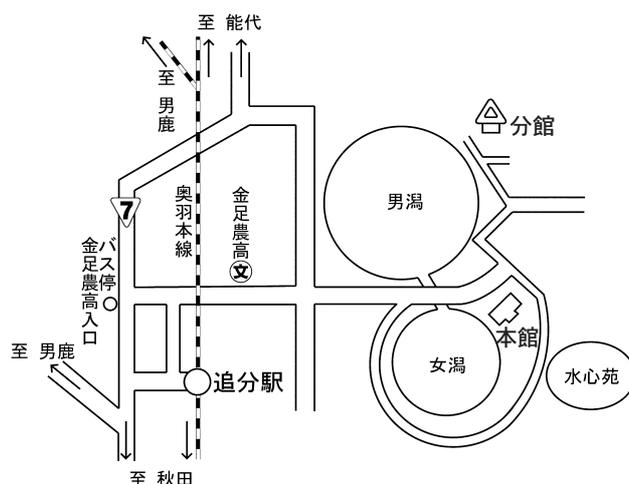
### 入館料

通常料金 無料  
平成11年4月1日から、博物館の入館料が無料になりました(本館・分館とも)。  
ただし、特別展の観覧は、有料となります。

### 使用料

区分	金額
講堂	1日 11,700円
	半日 5,850円
学習室	1日 3,500円
	半日 1,750円

## ～交通案内～



### 本館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩20分  
バス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩15分  
車：秋田自動車道 昭和男鹿半島 I C より10分  
秋田市中心部から国道7号で約15km・30分

### 分館

J R 東日本：奥羽本線・男鹿線追分駅から徒歩35分  
バス：秋田駅前起点の五城目線・金足農高入口下車徒歩25分

---

# 秋田県立博物館年報

平成26年5月発行  
〒010-0124  
秋田市金足鳩崎字後山52  
秋田県立博物館  
TEL 018-873-4121  
FAX 018-873-4123

---

